

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

主任教授・男性

**良くなった

- ・オンラインでの会議・学会に参加が可能となり、それらが始まる直前まで診療できるようになった。これまでは例えば東京での会議や学会に行くための数時間の往復時間を考慮する必要があったが、その往復時間を多く削れるようになった。
- ・オンライン会議により出張が減り診療時間の確保がしやすくなった。
- ・オンライン環境があればどこにいても診療に関する情報交換が可能。
- ・オンライン参加は、移動時間を節約でき、診療従事の時間との調整がより容易になった。
- ・リモート参加が可能になり、休診にする機会が減ったから
- ・移動に要する時間が節約できるため
- ・移動の時間が少なくなった分、診療に参加できる。
- ・移動の時間を減らすことで効率化が得られている。
- ・移動時間がなくなり、院内にいる時間は増えた。
- ・移動時間がなくなり診療業務に時間を割けるようになった。
- ・移動時間が減ったことで予定の手術が多くなった。
- ・移動時間が減ったため、出張が減り、診療に従事できる時間が増加した
- ・移動時間が減って、時間調整がしやすくなった
- ・移動時間が取られなくなったので会議などギリギリの時間まで外来や手術が出来るため。
- ・移動時間が節約できるようになった。
- ・移動時間が無くなることによる疲労がない
- ・移動時間の短縮により診察時間の確保が可能となった。
- ・移動時間の分の時間が使える
- ・移動時間を考えず、ぎりぎりまで診療に携われるようになった。
- ・移動等がないことで、診療に回す時間を持ちやすくなった。
- ・院外へ出る頻度が減り、より病院内での診療に集中できる
- ・遠くに行かなくても良くなったため。
- ・遠方の方との交流が進んだ。
- ・往復の時間がなくなって時間が有効に使える
- ・会議そのものが簡素化されたため、診療に回せる時間が増えた
- ・会議に出張する必要が減った。
- ・会議や学会の移動時間が節約でき、診療に費やす時間が増えた。
- ・会議や学会への参加に要する移動時間がなくなるため
- ・開催地への移動が無く、病院を離れる事が少なくなったから。
- ・外来を休む必要が少なくなった。
- ・外来を休診にする機会が減った
- ・学会に行かなくて済む
- ・学会会場に移動しなくても学会をライブまたはオンデマンドで視聴できるから。とにかく学会が多すぎて、全て参加していれば診療を連続で休まなければならない。学会を整理することは今後の若い先生のためにも必要と考える。
- ・学会参加の移動時間を診療にあてることが可能
- ・学会出張が減ったことにより、病院に居られる時間が増え休診の必要性が減った。
- ・休診が減った
- ・休診しないといけない日が減った
- ・休診にする外来日が減ったから。
- ・休診の回数が減少した。
- ・現地に行かないので学会期間中であっても診療体制に組み込めることが可能で人員が確保できる。ただしその分、学会参加の本来の意味は薄れる。
- ・現地に行かなくても診療の合間に学会が聴講できるため。
- ・現地に行かなくて良くなり、診療制限が減少した。
- ・効率的になった
- ・講義、会議、学会、研究会に参加するための移動時間が減り、その分を診療に充てられる。
- ・最新の情報を取得しやすくなった。
- ・参加しやすいので内容・質は向上したと思う

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 参加しやすくなった
- ・ 時間が確保しやすくなった
- ・ 時間が効率的に使える
- ・ 時間が増えたため
- ・ 時間の自由度が増えた。
- ・ 時間の制約が減ったため
- ・ 時間の有効活用
- ・ 時間的余裕が生じた
- ・ 実診療時間が増えた。
- ・ 出かけなくても参加できる
- ・ 出張・宿泊が減少
- ・ 出張が減った分診療時間は確保できる
- ・ 出張が減り、それだけ休診がなくなった。
- ・ 出張が減り、外来を閉じる事が減ったため。
- ・ 出張の時間が必要なくなった
- ・ 出張回数が減り、休診とせざるを得ないことが減った。ただし、コロナ禍による診療の困難があるので、その点では良くなったとは言えない。
- ・ 場所と時間の制約が減少したため
- ・ 情報収集がしやすくなったため
- ・ 職場から離れずにいることで診療参加の時間や機会が留保された
- ・ 診療しながらでも学会参加できる。
- ・ 診療に関わる時間が増えた
- ・ 診療を休まないで参加できる機会が増えた
- ・ 診療以外のオンラインでの業務がほとんど、勤務時間外に設定されるようになったため
- ・ 診療時間が確保できる
- ・ 診療中にオンラインで会議に参加できる
- ・ 大学を離れる時間が減ったため、診療や手術にかける時間が増えた。
- ・ 特に会議と学会は業務の傍ら参加が可能になった
- ・ 不在の時間が少なくなった
- ・ 不要な移動がなくなり、その分の業務時間の確保ができるようになった。
- ・ 聞きたい演題だけ必要に応じて聞いたりできるので有用。時間効率は上がった。
- ・ 勉強時間を後回しにできる
- ・ 無駄な遠方の学会に行かなくてよくなったから。
- ・ 無駄な会議への出席が減った。
- ・ 無駄な出張の減少し、院内業務に時間を使える

**変わらない

- ・ オンラインの有無で影響を受けない
- ・ オンラインが活かせるかに関してはこれからの課題
- ・ オンラインでの講義や会議と「診療」は関係ないから
- ・ オンラインになっても診療自体は変わらない
- ・ オンラインの会議が増えたからと言って特に診療には影響しないと思う
- ・ オンライン診療が出来る分野ではないので。
- ・ オンライン診療はごく一部
- ・ オンライン診療は取り入れられておらず、基本は以前と変わらない
- ・ こちらもこれまでと同様です。オンラインだと呼び出される事も多々あるので、現地に行く方がメリットがあります。
- ・ それにより診療時間の増減はなかったから。
- ・ メリットとデメリットが浮き彫りになっている。
- ・ もともと調整をしていたから
- ・ 以前から全力なので
- ・ 影響は少ないと考えます。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 外来のコマは変わらないので
- ・ 外来の休診は減ったかもしれないが診療業務としては特に変化は無いと実感している
- ・ 学会に行かなくて済むため、診療時間を確保できるようになった。
- ・ 管理運営業務のため現在診療のデューティをかなり免除されている。
- ・ 業務は変わらない
- ・ 研究、教育業務主体の勤務であるため。
- ・ 現在、自身は診療に携わっていないため。
- ・ 効率が良くなっていると言い切れない。
- ・ 産業医面談や衛生委員会はWEBが増えたが、以前と変化を感じていない
- ・ 時間に余裕ができた。
- ・ 出張は減ったが、WEB会議が増えて、時間的制約はむしろ増えたが、診療には影響はなし
- ・ 診療していないのでわからない。
- ・ 診療ニーズは自分の専門性では影響をうけないため、
- ・ 診療にはあまり関係ないため。
- ・ 診療には大きく影響していない
- ・ 診療に関与する時間が短いから
- ・ 診療に従事していない
- ・ 診療に費やす時間は変わらない
- ・ 診療に関しては大きな変化はない。
- ・ 診療のノルマは変わらないか、増えているため
- ・ 診療は学会や会議と関係ない
- ・ 診療は変化せず対面であるから。
- ・ 診療への影響は少ない。
- ・ 診療を第一にしてその他の活動を行っているので、診療に大きな変化はないと思います。
- ・ 診療業務を制限して学会活動をしていた訳ではない。
- ・ 診療時間が変化していないため。
- ・ 診療時間は変わらない
- ・ 診療自体にオンライン講義、会議、学会は関係ないから
- ・ 診療内容が変わることはない
- ・ 増えた時間は研究に充当するため。さらに、診療の質は常に最善を心がけているため。
- ・ 対面での学会の方が、色々な話が聴けるから。
- ・ 対面診療が基本のため
- ・ 特にこの点に関する変化はなかったため
- ・ 特に診療業務そのものには影響ありません。
- ・ 病理診断には影響なし。
- ・ 変わらないというか、わからない、です。
- ・ 変化を感じなかった。
- ・ 本質的には変わらない。
- ・ 良くなった点と悪くなった点の両方があり、一概には判定困難だと思います。

**悪くなった

- ・ WEBで気軽に会議ができるようになり会議の回数が増えた。
- ・ オンラインでの会議は設定されやすいため、診療時間が制限される。
- ・ オンラインで済む診療行為もあるだろうが、軽微であっても重大な変化は直接の診察が必要。
- ・ オンラインの便利さで会議回数、時間が著増している。
- ・ オンライン会議などが多く外来時間をどうしても短縮せざるを得ない
- ・ オンライン会議の回数が増えた
- ・ 医療の本来の役割を果たせていないから
- ・ 学会での休みが少なくなった
- ・ 学会なのに、結局オンライン参加のため、学会に集中できず、診療をやらざる負えなくなった
- ・ 学会に行かなくなって「出張」が減ったぶん、臨床をしないといけない。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・慣れないオンライン診療のための研修に割く時間が増えたから
- ・勤務日数の増加
- ・研修医の質が落ちた。
- ・時間を取られる機会が増えた
- ・時間外(夜)や休日でのオンライン会議や学会が増えた
- ・出張などの間も会議に欠席できなくなり、診療に関する業務の Duty が増えました。
- ・診療に関する情報の取得は、対面で行ったときの方が大きいので。

主任教授・女性

**良くなった

- ・移動時間がない、宿泊の必要がなくなり、つかえる時間が増えた
- ・移動時間の削減
- ・遠方の患者も診療できるようになった。
- ・往復の交通に伴う時間の節約が節約でき、診療を減らさずに済む
- ・学会参加のために移動時間がとられ、診療を休む必要があったが、オンライン参加であれば診療を休まなくても学会に参加できるため、休診にする必要が減った。
- ・現地への交通の時間が減った
- ・参加に関与する時間が減少した分、その時間を診療に充てることができる。
- ・時間の余裕
- ・出張が減り外来への影響がない
- ・診療の時間を移動のために削らなくてよかった。
- ・診療時間に割けるから
- ・同じく時間の節約
- ・標準的な知識の獲得には有用

**変わらない

- ・ほとんど診療業務がないため
- ・学会出張は減ったが、参加すれば診療は休むので同じ。
- ・関係がないから。
- ・今まで会場へ移動していたのが、オンラインになっただけなので変化はない。
- ・参加する時間は同じだから

**悪くなった

- ・オンライン講義用の別資料作成に時間が取られるので、診療もほどほどに切り上げざるを得ない。

教授(主任以外)・男性

**良くなった

- ・WEB 参加で現地へ行かないため診療への支障が減った
- ・オンデマンドで学会発表を聴けるので、診療と学会参加を両立できるから
- ・これまで移動に浪費していた時間を、診療に充てることができるようになった。
- ・ずっと職場にいるので
- ・ネット環境が充実したことにより、情報のアップデートが時間・場所の制約を受けないで可能になった。
- ・ビデオ講義が増えたので空き時間が有効に使える
- ・移動をしなくて学会参加が可能になった。
- ・移動時間が減った
- ・移動時間が少なくなり、診療に穴をあけることが少なくなった
- ・移動時間の節約ができ、診療業務への影響が少なくなった。
- ・移動時間の大幅な減少。とくに、地方では有難い。
- ・遠方の学会へも参加が可能となり、診療と研究を並行して行える機会がましました。
- ・遠方の学会もオンラインで参加すれば診療を継続できる
- ・遠方まで行く必要が減った

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 会議への移動時間を少なくすることができ、その分、診療に使えた。
- ・ 会議や学会の開催場所への移動がないため、診療を休まなければならない状況が減少した。
- ・ 会議や学会参加の時間が減ったため、部内での振替や時間調整など余計な管理業務が減った。
- ・ 開催地に向かう必要がなくなった。
- ・ 外来を休診にするなどの必要が減少
- ・ 外来休診の数がやや減少した。
- ・ 外来診療において休診が減少した。
- ・ 学会で診療を休まなくてもよくなった
- ・ 学会などのための移動時間が減ったため、外来を休診にする回数などは減った。
- ・ 学会などは現地に赴く必要がなくなったので、時間の節約になり、診療時間に費やすことができる。
- ・ 休む必要がなくなることが増えた。
- ・ 休診が減り、無理のないように診療数を配分できた。
- ・ 休診にしないでもよいこともある。
- ・ 現地に赴く必要がないので、時間が削減できる
- ・ 現地参加せずに済む
- ・ 現地参加以外でも参加できるようになったことで、情報収集が容易になった
- ・ 今までは診療を閉じていたのでそれがなくなっただけでも大きいです。学会で休むとその分のしわ寄せが後日きますし
- ・ 在院時間が長くなった
- ・ 時間が有効につかえる(移動時間の短縮)
- ・ 時間的制約は少なくなった
- ・ 時間的無駄が減った分、診療に時間を回せる。
- ・ 出張による休診日が減りました。
- ・ 出張による診療への影響がなくなったから
- ・ 出張の機会が減った。
- ・ 情報は格段に増えたと思います。
- ・ 新しい情報が得やすくなった
- ・ 診療に使える時間が増えた
- ・ 診療に時間が取れる
- ・ 多くの情報を効率的に移動せずに得られるので、その分、診療に時間を費やせるため。

**変わらない

- ・ オンラインでも準備は大変。
- ・ オンラインとは無関係
- ・ オンラインになっても、結局、診療しなければならない患者さんの数に変化はありません。
- ・ オンラインは参加できているかが疑問
- ・ タイムスケジュールが変わるわけではないから。
- ・ できる環境でないできる環境でない
- ・ とられる時間は同じである。
- ・ なぜ変わるのか理解不能
- ・ 移動の負担は減ったが、学会による休診は減った。
- ・ 移動時間が減ったが会議の数が多くなった
- ・ 影響が少ない
- ・ 外科診療はオンラインで行う部分が少ない
- ・ 学会・研究会前後の移動が不要になった分、診療を含む業務に時間が割ける様になったが、診療業務自体には顕著な変化は無い。
- ・ 患者が減るわけではないので、診療業務に変化はありません。
- ・ 休診にする機会は減ったかもしれないが、もともと学会が現地であっても休診はできるだけしないように配慮していたから
- ・ 業務形態は変わらないため
- ・ 現在、診療のエフォートが高くないのであまり関係ないかも
- ・ 自分の業務内では変化がないので。
- ・ 自分自身、オンライン診療は行っていないので、直接的に診療業務への影響はないと思います。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 診療にオンラインを生かすことができていない。
- ・ 診療にはあまり影響がなかった
- ・ 診療に影響を及ぼすことはない。
- ・ 診療に関しては、特に影響ないと思う
- ・ 診療はオンラインで行っていないため。
- ・ 診療はオンラインにはできないため
- ・ 診療はほとんどしていない。
- ・ 診療は減らせない
- ・ 診療は時間が決められている
- ・ 診療業務に影響するほどオンライン講義は入れないから
- ・ 診療業務に質的な変化を与えていないと思われます。
- ・ 診療業務は自分がどのような状況であったとしても絶対に最大限の労力と能力を注いでしなければならない事であり、周囲の環境に惑わされる(影響を受ける)ようなものではない。
- ・ 診療業務時間は不変
- ・ 診療時間の調整が利かない会議には出席していない。これは以前から変わらない。オンラインでは休日や夜の会議が増加している。
- ・ 診療時間も少ない
- ・ 特に変わりませんでした。
- ・ 内容の問題
- ・ 内容は変わらないから
- ・ 病理診断はさほど変わりませんでした。
- ・ 変化はあったが、どちらもいえない。良い面と悪い面がある。
- ・ 良い点と悪い点とが混在する
- ・ 良い面も悪い面もあり、現時点では判断できない。

**悪くなった

- ・ オンラインの設定時間が配慮されていない。
- ・ コロナの影響のほうが大きすぎる。
- ・ リベラルアーツ的な内容に耳を貸さなくなったから。
- ・ 会議に時間を取られる
- ・ 診療内容の是非にしても、グレイな要素は多いため、オンラインだと分かりづらい。
- ・ 平日のリアルしか認めない学会の場合、仕事を休めないとなると、時間が重なって帰って困ります
- ・ 臨床実習に関して、従来であれば診療と並行しておこなっていたものが、教育のみの時間を割かなくなった。教育専従の時間創出や人材配置をおこなうことで、診療業務に穴があく。
- ・ 論議できない

教授(主任以外)・女性

**良くなった

- ・ WEB セミナーで好きな時に勉強できる
- ・ オンデマンドなど、どちらかしか聴講できないはずの講演が両方聴講できる。
- ・ これまで診療のために参加できなかった学会でも視聴できるようになり、診療に専念できるようになった。
- ・ 移動せずに参加できる
- ・ 移動時間が短縮された
- ・ 時間が有効に使える
- ・ 出張が減り、診療を止めなくてよくなったため
- ・ 出張せず、診療もできるから。
- ・ 出張のために休診にしなくても済む
- ・ 診療業務を休まずに学会に参加できる
- ・ 地方なので移動の時間が減った

**変わらない

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 診療に要する時間は変化させないため
- ・ 診療時間は変わらない。

**悪くなった

- ・ 学会期間中でも診療がある

准教授・男性

**良くなった

- ・ 現地に行かなくて良いため移動の時間負荷が減った。
- ・ 「診療」時間が削られる機会が減るように思う為
- ・ オンデマンド参加や WEB 参加では、休診する必要がない。
- ・ オンライン、特にアーカイブで視聴できる場合は診療への影響が少なくなった
- ・ オンラインでの学会や研究会への参加で診療に穴をあける必要性が少なくなった
- ・ オンラインと直結はしないが、電話診療が一般的に普及して、医師にも患者にもメリットだと思っている。オンラインで許される業務時間が診療に回れば患者さんは Happy.
- ・ オンラインの合間に診療ができる。
- ・ オンライン化で移動が必要なくなったため、診療業務への影響が激減し、人手不足の現場が何とか持ちこたえることができた。
- ・ ゆとりができた
- ・ 以前より知識を、得やすくなった
- ・ 移動などの時間が削減できるため。
- ・ 移動にかかる時間が激減した
- ・ 移動距離がなくなった。会議の時間が短くなった。
- ・ 移動時間がなくなり、休診にする必要がなくなった
- ・ 移動時間が減ったがその分診療業務に回るため診療時間は長くなった
- ・ 移動時間が減り、ギリギリまで診療可能
- ・ 移動時間も診療に当てられる
- ・ 移動時間を考慮せず済むことで、学会の為に数日間休む必要度が減少した。
- ・ 一部の学会はオンラインのみで参加でき、外来の休診が少なくなった
- ・ 遠隔地への移動時間が省略可能になったから。
- ・ 遠方の先生の講演を聞く機会が増え、得られる情報量が増えた。
- ・ 遠方への出張が減った。
- ・ 会議、研修参加の負担が減った。参加しやすくなった。その分診療に生かせる機会が増えた。
- ・ 開催地まで移動する必要がなく、診療に穴をあけずに済む様になった。
- ・ 学会・会議参加による診療時間の短縮が少なくなったため。
- ・ 学会で診療時間を削る必要性が少なくなったため
- ・ 学会に行く時間が減少したため
- ・ 学会の時間、移動時間にしぼられなくなった。
- ・ 学会参加のために数日間空けなくてもいい
- ・ 学会参加のために病院を不在にする医師数が少なくなった。
- ・ 学会等で地方に行かなくて済む。
- ・ 気軽に空いた時間で参加できるため
- ・ 休診が減ったから
- ・ 休診する必要がなく、出張しない医師への負担も減ったのではないかと思います。
- ・ 教育的な講演を繰り返し見ること臨床能力が向上した。
- ・ 勤務日の調整がしやすくなった
- ・ 現地に行かなくても単位がとれる。診療に穴があかない。
- ・ 現地に行く時間が省ける分、診療日でも参加可能となった。
- ・ 現地に行く時間ロスが無くなった
- ・ 現地に行けない状況でも web で参加が可能
- ・ 現地に出張する時間が減少したため

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 現地に赴く必要がないため、学会参加の合間に診療ができる
- ・ 交通時間がかからなくなったから。
- ・ 効率化された
- ・ 効率的な学会参加ができるようになり、他の業務に時間を割けるようになった
- ・ 参加のための移動時間が、研究・教育・診療に回せるため効率が良い。
- ・ 視聴時間が増えたことで知識が増した
- ・ 時間の制約が減った
- ・ 時間はできた
- ・ 種々の情報が得やすくなったと共に、時間の有効利用が可能となった。
- ・ 出張がへったので診療にさく時間が増え、患者さんにはよいことと思います。
- ・ 出張が減り、穴を開けることが減った
- ・ 出張の移動にかかる時間を診療に振り分ける事が出来た。
- ・ 出張の往復の時間が削減されるので診療を休まなくてもよい
- ・ 情報収集はしやすくなった。
- ・ 診療に関するミーティングもオンライン化することで、普段参加がしにくいメンバーも参加しやすくなったため。
- ・ 診療に従事できる時間がやや増えた。
- ・ 診療をずっとつづけることができるので、患者さんにとってはいいと思います
- ・ 診療を犠牲にして学会へ行く必要がない
- ・ 診療業務を続けながら学会に参加することができた
- ・ 診療時間を削らずに済む
- ・ 診療時間内でも会議に参加しやすくなった。
- ・ 人員不足が解消された
- ・ 多様な意見に触れられる
- ・ 大学に不在となる時間が減った
- ・ 入手しやすい情報が増えたため
- ・ 病棟からでも参加できる。当直中でも急な業務がなければ参加できる
- ・ 不必要と感じていた会議がオンラインやメール審議になって、無駄な拘束が減ったのはいいことだと思う。
- ・ 無駄な移動時間がなくなった
- ・ 無駄な出張が減った

**変わらない

- ・ 移動時間が無くなった分、診療に回せる時間が増えた。移動時間の気分転換がなくなり、余裕が無くなっている。
- ・ いい面もあれば悪い面もある
- ・ オンラインであれ対面であれ、会議や学会が診療に及ぼす影響はほとんど同じ
- ・ オンラインであろうが現地であろうが会議などに参加している時間は診療を止める必要があるもので、以前とさほど変わらない。
- ・ オンラインでは、外来診療を閉じる必要が少なくなった
- ・ オンラインでも学会参加に取られる時間に変化があるとは思えない
- ・ オンラインで参加出来ることで、移動時間が短縮された分診療業務に従事する時間を得やすくなったが、診療業務そのものへの直接的な影響はないと思う。
- ・ オンライン化は診療分野で進んでいない
- ・ オンライン講習が増えたが、業務が改善するほどの影響を受けてない。
- ・ オンライン診療はしていないため
- ・ オンライン前は学会参加をあきらめていた。オンライン後は会議の時間のみ診療から一時離脱している。
- ・ これから影響が出るのかもしれない。
- ・ そこまでの影響力はない
- ・ そもそも診療は最優先事項であり、増やしたり、減らしたりするものではないから
- ・ どちらにしても自分の予定に合わせて業務を計画するから
- ・ まだ米国のようにオンライン診療が普及していないので、基本的には診療に変化はないと思います。
- ・ メリット、デメリットで、プラスマイナス0
- ・ もともと、診療に割く時間は多くありませんでした。(多くて3時間/週)
- ・ もともと診療業務に携わっていない。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・影響しなかったから
- ・科の性質としてオンライン診療がないので。
- ・会議・講義時間と診療時間はリンクしている印象が持てない
- ・会場往復の手間が減ったが、救急対応などを含め診療業務の要請が減ったわけではない為
- ・学会休診が無い分、学会休診後の予約殺到がなくなったが、深夜まで配信視聴で寝不足での診療が増えた。
- ・学会参加のために診療を休む必要は少なくなったが、メリハリがつかなくなった。
- ・患者は、病院に来なければ、基本診察できない。
- ・休診がわずかに減少した。
- ・業務に変化はない
- ・研究、教育の時間節約にはなるが、だからといって診療には全く影響ない。
- ・現地での直接の情報交換ができないので、よくなったとは言えない。
- ・現地に行かなくても参加できるが、それが診療と直結しない
- ・時間的には、あまり変わらないと思うので。
- ・実感がない
- ・出勤せざるをえないから
- ・診療していないから。
- ・診療で行う内容は変わっていない
- ・診療と教育は別のものである
- ・診療にオンラインを用いていない
- ・診療には影響はないと思います
- ・診療に影響を及ぼすほど、学会参加などしていない
- ・診療の変化は自覚していない
- ・診療はオンライン化がほとんど関係していない。
- ・診療は講義や会議とは全く独立している
- ・診療は対面で不変と考える
- ・診療は変化ない
- ・診療への影響はなかったから
- ・診療業務には直接関わらない。
- ・診療業務に変化はありません。今後は経過観察患者はオンラインで行えるような国を挙げての仕組みづくりをお願いしたい。
- ・診療行為をしていない。
- ・診療時間は変わらない。
- ・診療内容には変化はないため、影響はない
- ・対面診療を重視して対応しているため
- ・直接関連がないため
- ・投薬のみを希望する患者が増えて時間的な負担は減っているが、丁寧な診療がしにくくなっている。
- ・当院はいわゆるオンライン診療を行っていない。
- ・特に影響はないように思えるため
- ・比較しにくい
- ・普段、診療に従事していない
- ・変化を感じない
- ・良い点と悪い点が双方存在します。良い点は出向せずに済むため、時間が有意義に使える。悪い点は会議・学会参加等のオンライン化により対面により得られる診療情報は減少した。

**悪くなった

- ・オンラインよりは現地の方が学びが多い
- ・そもそもオンラインでの学会参加はモチベーションが上がらない。このため、学会参加を避ける者が増えており、新しい知見を知る機会が減少している。そして発表の質も落ちている。
- ・以前は出張などの移動時間や、出張先での滞在時間は診療を行うことはなかったが、オンライン化が進むことにより、直前まで別の勤務を行ってからオンライン会議に参加することとなった。結果として休める時間が減ったように思う。
- ・学会が多すぎる。
- ・学会などへの参加が減りその分の診療にかかる時間が増え負担も大きくなった。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・業務をこなしながら学会参加するので、仕事が倍になる
- ・高齢化社会の日本では患者側がデジタルやオンラインの文化が根付かないから
- ・時間が有効利用できない
- ・時間の余裕がなくなった
- ・時間外に病院の委員会会議を設定される
- ・時間内の会議が増加し、診療エフォートが減少。
- ・情報収集がやりにくくなった
- ・息抜きが出来ない
- ・中途半端
- ・費やす時間が減った。
- ・不在にできないため、想定外の診療や緊急対応を求められる
- ・忙しすぎる こなせない

准教授・女性

**良くなった

- ・オンラインですぐ職場から参加できるから
- ・移動の時間が不要になったので、今までなら診療業務で参加出来なかった学会にもオンラインで参加や、オンデマンド配信で講演を聴くことが出来るようになり、学会や会議参加のために診療を休まなくてよくなった。
- ・移動時間が不要になった。
- ・移動時間の分診療できる
- ・遠方に出かけなくてよいから
- ・学会にいくのに休診にしなくてよくなった
- ・学会に参加しやすくなり、学習の機会が増えた。
- ・学会のオンライン参加では診療はそのまま行なっている。
- ・学会出張での平日の休診がなくなった
- ・学校行事との両立がしやすくなり、診療に支障を来しにくくなりました。
- ・休診せずに学会に参加できる
- ・休診の機会は減る
- ・講演参加が容易になった
- ・時間が自由に使えるため
- ・情報収集が容易
- ・診療の合間に会議に参加できる。診療を削らなくてすむ。
- ・診療の合間に参加できるようになり、診療業務の中断が減りました。
- ・診療を休まずに学会に参加することも可能になった。
- ・代理をたてなくてよい
- ・知識のアップデートが容易になったため。
- ・不要な出張の減少で、診療時間が増え、診療可能な患者数も増えている。
- ・複数の会議に参加できる
- ・勉強会の参加数が増えた

**変わらない

- ・オンライン診療や電話再診など、コロナ流行渦で困った時の代替案の選択肢は増えたがその分現場の混乱が著しい
- ・感染対策に苦勞することはあるが、その他は何も変わらない。
- ・常に安全・質の高い診療を意識しているから。
- ・診療にはオンラインが導入されていないため。
- ・診療には大きな影響はない。
- ・診療業務にはさほどの影響はない。
- ・診療内容に影響はない
- ・良い点は移動しないで良いので外来日が削られないこと。悪い点は興味のある講演を視聴したくても外来があるのであえて予約を削ることが難しいこと。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

**悪くなった

- ・ 会議時間がながくなった
- ・ 来院せず、薬のみが増えている。

准教授・回答しない

**変わらない

- ・ オンデマンドでの学会参加が増えたので、診療時間に影響はなくなった
- ・ もともと多忙

講師・男性

**良くなった

- ・ オンデマンドの活用で診療を休まなくとも知識を得られるようになった。
- ・ オンデマンドの録画講義でも良くなり、その分を診療に回せたり自由度が広がった
- ・ オンラインで学会参加が容易になり、診療が手薄になることが減った。
- ・ オンラインの講習会に参加する機会が増えたため。
- ・ オンライン会議・学会では移動時間がないので、時間が節約できる。
- ・ オンライン診療できるようになったから
- ・ それぞれに良さがあります
- ・ フレキシビリティが高くなった
- ・ わざわざ遠くまで出かけなくて済む
- ・ 移動、宿泊せずに済むため、休むことなく業務ができるため。
- ・ 移動がなくなって楽
- ・ 移動による肉体的なストレスや時間の消費が軽減された。自分のオフィスで業務が完結する。場合によっては自宅でも対応できる。無駄な時間がなくなったことで、必要な業務に割ける時間が増えた。
- ・ 移動の時間が減り、臨床に従事する時間が増えたため
- ・ 移動の時間が節約される
- ・ 移動時間がないので、その分時間が確保できるから
- ・ 移動時間が減り、準備に費やす時間が増えた
- ・ 移動時間が減り診療業務に使える時間が増加した。
- ・ 移動時間が削除でき有益と思われるため
- ・ 移動時間が省かれて診療の時間を増やせる
- ・ 移動時間の短縮。勤務時間が損なわれない。
- ・ 移動時間や休診を減らすことができた。
- ・ 移動時間減りその分業務に充てられる
- ・ 移動等のための休診日が減ったため、外来混雑が緩和。外来予約数のブレ幅が小さくなった。
- ・ 院内にいながら参加できるため
- ・ 遠距離から参加できる。移動時間が減って診療に当てられる。
- ・ 遠方に出向く必要がなく、診療に時間を割ける。
- ・ 遠方の学会や会議へも診療科の合間に参加できるようになったため
- ・ 会議・講演会・学会への参加の労力が減ったので身体的負担も経済的な負担も減った。会合がなくなったことで、アルコール摂取や参加のための費用が減って、自分の時間が増えた。
- ・ 会場への移動時間・着替えなどの無駄が減った。学会においてはオンデマンドで効率よく学習できるようになった。
- ・ 学会で休まねばならないことが減った
- ・ 学会に物理的には行かなくて済むようになったため、休診にする必要がなくなり、結果的に診療のしわ寄せを考えなくて済むようになった。
- ・ 学会のために診療を休む時間が減った。
- ・ 学会の為、外来を休むということがかなりなくなった。
- ・ 学会や研究会が自宅に参加できるため、外来を休診にしなくてよくなったから。
- ・ 学会会場に行く必要がなくなったから
- ・ 学会参加(移動)による休診時間が短縮されたため。
- ・ 学会参加、単位取得のための出席などで多くの時間、旅費、手間がかかっていたのが大幅に削減できた。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・学会参加で現地に行かない分、診療時間が確保できた。
- ・学会参加による休診の機会が減った
- ・学会参加機会の増加、希望するセッションの良好な環境での視聴が可能になったため
- ・学会出張で休診の必要が減ったから。
- ・学会場に行かなくとも良かった。
- ・学習機会が増えた
- ・患者と接触する時間が短くて済む
- ・休みを取る必要がなくなった
- ・休診が減りました。
- ・休診をつくる頻度が減った
- ・休診日が減ったことで診療は良くなったと言えるかもしれないが、反面息抜きの機会が減った。
- ・勤務の合間でも学会参加が可能
- ・勤務の都合で参加できなかった学会にも参加できるようになった
- ・現場を離れなくて良くなり学会参加しやすくなった
- ・現地に行かないため病院内での時間が増えたため。
- ・現地に行かなくてもよいと、参加のために診療を中止することが減った。
- ・現地に行かなくてもよくなったので、病院を休む必要がなくなった。
- ・現地に行かなくても良いので、病棟を空けずに参加する事が可能。
- ・現地に行かなくてよいので余裕ができたが、医師間でのコミュニケーションがとりづらくなった
- ・現地参加が不要になり、移動の時間を診療に振り替えることができる
- ・交通時間がなくなり、休まなくてよくなった。
- ・効率が良くなった
- ・更に遠隔診療が進むとよい
- ・資格維持が楽になった
- ・時間が節約できる
- ・時間に余裕が生まれて診療しやすくなった
- ・時間の節約になり負担が軽減される。移動時間等。
- ・時間的空間的制限が減った。
- ・自分の場合は曜日により外来担当日や外勤の都合で勤務内容が異なるので、学会日に欠勤することが減った。
- ・受診控えや受診困難な患者さんへもオンラインや電話診療で対応できるようになったため。
- ・出張がなくなり、外来診療を休まなくてもよくなった。
- ・出張が減り、診療時間を確保しやすくなった
- ・出張で不在となる職員数は減り、勤務管理が容易になった
- ・出張にかかる移動時間が減った。また、遠隔の研究会にも参加できるようになり学びの場は増えた。
- ・出張のために、無理な診療を行わなくて済むようになりました。
- ・出張の移動がなくなった分、診療時間の減少を防ぐことができた。
- ・出張の機会は減少した
- ・出張回数が減り、カルテを見る機会が増えたから。
- ・情報へのアクセスが容易となり、より多くの情報を得る機会があるため
- ・診療に関する最新の情報を取得する機会が増えた
- ・診療に費やすことができる時間が増えた
- ・診療の合間に会議に参加出来るため、診療をストップしなくてよくなった
- ・診療の時間に合わせて参加できるため。
- ・診療を休まないため、郵寄せが起きにくくなった。
- ・診療を休まなくても、会議・学会参加できる。
- ・診療を休む必要がなくなるから
- ・診療を行いながら必要な情報はオンラインで聞けるようになったから
- ・診療時間をより確保しやすくなった。
- ・政府が重い腰を上げざるを得ず、結果的にオンライン診療が解禁された。
- ・専門外の講演を聞く機会が増えた
- ・他施設とオンラインでカンファレンスが可能

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 知識が増え、アップデートされたから
- ・ 知識などが増えたと感じるから。
- ・ 地方からでも参加できるので情報収集しやすい
- ・ 朝 7 時台のカンファレンスに参加が可能となった。
- ・ 東京などへの旅費・時間が掛からなくなった
- ・ 無駄な出張による休みが減った。
- ・ 録画授業などで時間が確保出来た

**変わらない

- ・ あまり影響がない。
- ・ あまり変化ない印象です。
- ・ オンラインで行なっていないため
- ・ オンラインで参加するにせよ、診療業務中には参加できないため、診療終了後に参加するという意味では変化は特にない。
- ・ オンラインになってよかった会議もあります。一方、学術集会については対面参加でないと、得られるものは非常にすくないと感じています。
- ・ オンラインのため現地に行くことがなくなったため当院時間は増加し、診療を行う時間は増加したがその分学会での勉強が中途半端になったり、時間外にオンデマンドを見ることによる労働とカウントされない時間外労働が増加したため
- ・ オンラインをいかした診療をしていないため変化はありません。
- ・ オンライン診療が普及していないから。
- ・ オンライン診療は導入されはじめたが、オンラインでの遠隔地手術への参加、オンラインを利用した診断システムなどはまだ診療に導入されていない。これからの課題である。学会参加時間が増えたわけではない。
- ・ そこまで大きな変化はないが、診療を休まなくていい可能性はある。
- ・ まだ実感が無い。
- ・ メリットデメリットと半々かな、と思います
- ・ もともと学会参加ができなかったため。
- ・ 医療に対するオンラインの影響が少ないため
- ・ 影響を感じないから。
- ・ 影響を受けていないと思うので
- ・ 遠隔の会議に参加がしやすくなり、移動時間を要さないのはメリットとしてある。一方、過度に会議が多くなり、より時間が拘束されるようになった。直接の会話ができず、会議・学会は情報が受け身になることが多くなった。
- ・ 会議や学会と診療のどちらも行うことはできないから。
- ・ 学会がオンライン参加が多くなり、学会参加で休む時間が減ったこと、また高齢化によって患者数が増えていることで診療時間は増えた。オンラインの研究会や学会参加で最新の情報を容易に取り込みやすくなった。たくさんの患者をみている医師にとっても、遠くから大学病院に来て、待ち時間が長い患者にとっても、オンライン診療ができるようになったことは良かった。
- ・ 学会に参加する頻度が減ったため
- ・ 学会参加はしやすくなった。
- ・ 学会参加は逆に減った。
- ・ 学会場に行かなくなった分、診療等の時間は増え、プラスマイナスゼロである。
- ・ 強制的な機会が減ったため、コミュニケーションも減り、意欲が落ちた。
- ・ 今のところよくわからない
- ・ 雑用はそのまま
- ・ 参加しやすくなったが、取捨選択が難しくなった。
- ・ 参加による診療制限は変化なし。
- ・ 実際にしている仕事自体は変わりません。
- ・ 出張での外来休みが減る程度(曜日によっては不変)
- ・ 出張のために休診にしなくても良くなったことが良いことか悪いことかは不明
- ・ 診療そのものに変化はない
- ・ 診療との直接的な関係は乏しいから
- ・ 診療にはオンライン化の効果はそれほど大きくない
- ・ 診療には基本的に影響していない
- ・ 診療の優先順位が高いため

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 診療はリアルなので。
- ・ 診療は患者さん相手のものであり、オンラインでは学ぶことは難しい。対応は場合や状況により異なる。
- ・ 診療は基本的に対面であるため変わらない
- ・ 診療も現場にいないと実施できないためオンラインが増えても効率化は困難
- ・ 診療業務に対しては影響はありません。
- ・ 診療自体に変化はありません。
- ・ 診療自体はオンラインの影響は受けていないです。
- ・ 多くの講義を聴く機会は増えたが、人に聞く機会などは減った面もあるから。
- ・ 対人での診療には無関係
- ・ 対面にて行うべき診療業務量に変化はないから。コロナ感染を警戒して臨床研究対象の患者の再診が減り研究が停滞し、診療時にマスクやガウンなどを付ける必要が生じた。
- ・ 超緊急の手術業務がそれほど多いわけではないため、オンラインの機会が増えて診療に時間が回っても、あまり変わらなかったため。
- ・ 直接影響受けるものではないため
- ・ 必要であれば勉強は自分でするから。
- ・ 良い面と悪い面が相殺

**悪くなった

- ・ WEB 学会だと勤務しながら参加→結局参加しにくい
- ・ オンラインだと臨場感や集中力の低下で理解力が低下している印象がある
- ・ オンラインでは限界があります。
- ・ オンラインで学会に参加する場合は出張(不在)とみなしてもらえず普通の業務をする必要があり、学会にフルに参加できないため。
- ・ オンラインで講義、会議、学会があったとしても、現地開催の頃も基本的に参加していました。このため、診療には影響しません。むしろきちんと学会参加に割いていた時間がなくなってしまうので、学会に参加することで学べることは減っています。故に質は悪くなっていると思います。
- ・ オンラインの講演は参加していても真剣に聴講しないことが多い
- ・ オンライン会議が増え、結果的に診療の準備などに割く時間が減っている
- ・ 移動が減り休診が減った。しかし、病院が増えた。時間外に学会に参加することになり、プライベートな時間が減った。
- ・ 一見合理的と思う先生も多いと思うが、長い目でみると、多くの時間を費やして発表したり、講演をされている方の思いや熱意は感じる事が難しい。
- ・ 会議が増えた
- ・ 学会で新しい知見を取り入れてこそ、診療に生かせるのだが、オンラインでは一部の人たちだけで話が進んでいき、その機会を奪われていると感じる。
- ・ 学会と診療を分けられないから
- ・ 学会への参加が日単位から時間単位となり、細切れでも診療業務に参加せざるを得ない雰囲気がある。
- ・ 学会期間の合間に外来など施行する事が増えた
- ・ 学会中でも診療業務が入るようになった。
- ・ 感染対策で、制限が必要だから
- ・ 強制的に参加となるため、診療時間を無理して削っています。本末転倒。
- ・ 質の悪い医師が増えた、WEB によって自分ができる気になってしまっている医師が増えた。
- ・ 実習・見学形式で学ぶ医療技術の習得機会が著しく減ってしまった。
- ・ 製薬会社の講演会など減った。オンラインは集中して聞けない。
- ・ 全ての会議に参加できてしまうため
- ・ 燃え尽きに因るやる気の枯渇
- ・ 変更のあった情報をキャッチしづらいため
- ・ 本来ならば現地参加のために欠席が可能であったら会議などへの出席頻度が格段に増加したため。

講師・女性

**良くなった

- ・ オンラインでの勉強機会が増えた。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ オンラインで参加できるため休診の必要がなくなった。
- ・ オンライン参加が増えたことで、休診が減った。
- ・ オンライン参加により、出張等による人手不足が解消されやすくなった。
- ・ オンライン診療を取り入れ落ち着いている方は直接来院されなくてもよくなった
- ・ 移動に時間を取られなくなった
- ・ 移動の時間や不在にすることが少なくなった。
- ・ 移動時間がないため、診療業務を離脱する時間が減った。
- ・ 移動時間が不要のため隙間時間に診療が可能
- ・ 移動時間の短縮がはかれるため。
- ・ 移動時間を考えなくてよいので、診療時間も確保しやすい。
- ・ 移動時間を診療に割くことができる
- ・ 移動時間を必要としない。
- ・ 育児中でも学会参加が積極的に可能となる
- ・ 遠方の学会に直接行かずに済む場合は、前後の移動時間を診療に充てられる。
- ・ 会議や学会のために診療の都合をつけなければいけない事が減ったため。
- ・ 会議や講演などにリモートで参加できるようになり、移動時間が短縮され診療時間が圧迫されなくなりました。
- ・ 外来を休む事はなくなった。
- ・ 外来を休診しなくてよいという利点がある。
- ・ 学ぶ機会が増えたので
- ・ 学会クレジット獲得のために、わざわざ職場を空けなくて済むようになり、診療に費やす時間が少しは増えたように感じるの。
- ・ 学会で診療を休む時間が減ったから
- ・ 学会のために出張しなくて良くなったので、診療業務により多くの時間が割けるようになった。
- ・ 学会へ行くために外来を休診にする機会が減った。
- ・ 学会参加による不在時間が減少するため。
- ・ 気軽に勉強できる環境になり、最新の情報も得ることが可能。
- ・ 研修・学会に参加しやすくなった
- ・ 現地に行かなくても学会参加ができるようになった
- ・ 最新の情報を得ることが手軽にできるため、診療の質を上げることができたから
- ・ 参加しやすくなった
- ・ 時間に余裕が生じているから。
- ・ 時間の短縮
- ・ 時間や場所を調整せずに参加できるため、その時間を診療に当てることができる。
- ・ 出張が減った
- ・ 出張のための移動時間がないので、通常業務を休まなくて良い場合が増えた
- ・ 診療に影響することなく効率よく聴講することができるから。
- ・ 診療に体力を残せるようになった。
- ・ 診療の合間に会議が可能
- ・ 診療の合間や終了直後でも参加可能となったので診療を切り上げる必要がなくなった
- ・ 診療を休まないでも学会に参加できる
- ・ 知識の習得がしやすくなった。
- ・ 得た知識を活かしている
- ・ 物理的な移動、準備時間が減少し、時間が節約できたことで本来の業務に充てる時間が増えた。
- ・ 北海道は地理的に不便なので現地に行かなくてよいのは時間や金銭的に非常に助かる
- ・ 無駄な出張がなくなった

**変わらない

- ・ あまりオンラインとは関係ないから
- ・ オンラインでの講義や会議・学会参加と、時間が決まっている診療とは関係ない。
- ・ システムの問題ではないと思う。
- ・ リアルでの診療が続いた
- ・ 移動がないが、参加することによって変わらないため。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・影響なし
- ・学会に参加しやすくなったため
- ・学会はこれまで通り熱心に参加しているし、診療も変わらず行っているから
- ・業務をしながらの参加になりあまりよいとはいえない。
- ・試聴は診療時間外にできるから。
- ・診療との掛け持ちはどっちつかずになりがちである
- ・診療は対人で行っているから。今後オンライン診療の体制がより整えば、良くなったと言える日も来るかもしれない。
- ・診療への影響はそれほど感じていない
- ・診療中もどうしてもログインしないとけない会はログインしているから。

**悪くなった

- ・これまでは出張で学会場に行けたが、今は診療の合間に学会に参加している感じであり、どちらにも集中できない。
- ・遠方に出張することがないため、休診をしなくともオンラインで参加できるようになったが、業務は増え診療の内容には反映されない
- ・学会などで直接の意見交換や相談ができない。
- ・病院にいるため同時に診療してしまう

講師・回答しない

**良くなった

- ・学会参加のための休診日を減らすことができた
- ・出張しなくてよくなったので休診にする必要がなくなった。

**悪くなった

- ・ZOOMなどのTV会議でなく、電話再診しか許されていないため、非常に時間がかかるようになった。また何度もつながるまで電話をかけたか、説明をしたり(事務がやらなくなった)、看護師も介在しないため、医師がすべての業務を担うことで、医師の作業量が爆発的に増えた。

助教・男性

**良くなった

- ・WEB参加により、午前診療して午後学会参加などが可能になった
- ・あまりにも多い診療業務で疲弊しているため、診療の合間に学会参加できるのは、診療の効率化につながり助かった面もある。一方、COVID関連の診療業務の増加でその恩恵はまだ十分実感できていないけど、現在の診療体制でオンサイト学会に参加するのは困難と感じる。
- ・オンデマンドであれば診療時間に関係なく視聴できる。
- ・オンデマンドなら診療時間にわざわざ聞かなくて良くなった。
- ・オンデマンドにより診療時間外に学会参加出来る様になった為
- ・オンデマンド配信を使用することで、診療を止める必要がなくなった。
- ・オンラインでなら参加できる会議が増えたため、学習の機会は増えたから。
- ・オンラインでのみしか出席できないものが、出席できるようになった。
- ・オンラインでの学会参加が可能になったことが一番大きく、診療時間を日単位で削る必要はなくなったため。
- ・オンラインでの学会参加が増えた。
- ・オンラインでの講演が可能となり時間を有効に使えるようになった
- ・オンラインでの参加の分、移動時間など浮いた時間は診療に時間を割いているため、
- ・オンラインで学会参加することができるため診療の合間に簡単に学会や講演を聴講できるようになった。
- ・オンラインで職場で行えるので、診療をギリギリまで行うことができるため
- ・オンラインのため会場に足を運ばなくても良くなったので診療に時間が費やせる。
- ・オンライン参加が可能になり、診療との両立がしやすくなった
- ・オンライン参加可能で時間節約
- ・そこまで参加したくなかった(単位取得等)ものに移動時間を割く必要がなくなったため
- ・やっている臨床業務自体は見た目変わらないですが、バックボーンとなる知識が増えたことにより質の改善に繋がっていると思う。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ より多くの臨床家から知識やアイデアを得ることができた
- ・ わざわざ遠方に出掛ける移動時間が不要になったから。
- ・ 移動がない分休診にせずに会議に参加できる。
- ・ 移動に取られる時間が少なくなり診療へのしわ寄せは少なかった。
- ・ 移動に要する時間が減少した。参加できる機会が増加した。
- ・ 移動のロスタイムが減った。金曜を休診にせずに土日の学会に参加できるようになった。
- ・ 移動の手間が省け、時間が有効に使える。
- ・ 移動や出張を伴わなくとも参加できるようになったため。
- ・ 移動時間がなくなり、学会の新しい情報入手しやすくなり、診療に反映しやすくなった。また、移動の問題から休診にして前日入りなどをせずに、半休などで対応できるようになった。
- ・ 移動時間が減り、その分時間確保ができるため。
- ・ 移動時間が少なくて済むので、診療に充てられ時間が増えた。
- ・ 移動時間が少なくなった 職場にいることができる
- ・ 移動時間が他のことに使えるのは大きい。病院を出ずに学会参加も可能なのは助かる。
- ・ 移動時間など無くなり、診療時間を割く必要がなくなった。
- ・ 移動時間の減少によって診療のために割り当てる時間が増えました。
- ・ 移動時間の短縮と知識の共有がしやすくなった。
- ・ 移動時間や拘束時間が減ったので、時間的な余裕ができた。
- ・ 医師不在の割合が減ったため
- ・ 遠隔から発表できるため、時間の拘束が無い
- ・ 遠隔の病院との診療がしやすくなった
- ・ 遠隔診療が行えるようになったため、診療の物理的な範囲が広がったように思うため。
- ・ 遠隔診療により、殊にコロナウイルス感染症などにおいては拡大抑止となり得る。
- ・ 遠方で行われる学会でも参加しやすくなり、情報収集の機会が増えた。
- ・ 遠方の学会でも参加できるので、知識を得る機会がかなり増えた。
- ・ 遠方の学会にも診療を休まず参加できる
- ・ 遠方へ行かずして、勉強会に参加しやすくなり、知識を得やすくなったため。
- ・ 遠方まで行かなくていいので診療時間が長くできる
- ・ 遠方移動がなくなり外来を休診する日が減ったので
- ・ 会議に時間を妨げられなくなった。
- ・ 会議や学会の移動によって診療制限を受けなくなったため
- ・ 会議や学会参加のため現地に行く必要が減ったため
- ・ 会場に行かない分、診療に行える時間が増えた。
- ・ 外勤先からでも会議に参加が可能である。
- ・ 外来を閉じずに、オンデマンドで視聴できることもあるから。
- ・ 学びやすくなった。
- ・ 学びやすくなったので診療レベルも上がったと思う。
- ・ 学会などで抜ける時間が短くなり、その分を診療に充てることができる。
- ・ 学会による休診が不要となった。
- ・ 学会に行かない時間、病院で勤務できるので
- ・ 学会に参加しやすくなった
- ・ 学会の空き時間に診療できるので助かります。
- ・ 学会の現地に行かなくても、オンラインで最新の医療知識を得られるようになった。
- ・ 学会への参加による業務の欠席が減った
- ・ 学会や会議の現地参加によって診療業務を犠牲にする必要がなくなったから
- ・ 学会や会議への参加機会が増加し、インプットが増えた。
- ・ 学会会場に行かない分、診療に穴が空かない。
- ・ 学会期間中でも手術や外来診療ができる。
- ・ 学会現地参加がマストではないものが増えて、時間とお金の節約でよい
- ・ 学会参加・会議参加のための移動時間を診療に充てられるようになった
- ・ 学会参加がしやすくなったことで最新の知見を得る機会が増え、診療の質が上がった。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・学会参加しても病院内で仕事ができる
- ・学会参加のために診療業務を休むことが減った
- ・学会出張で休診が減ったため
- ・学会出張や時間外での研究会参加などが減ったので、その分時間ができた。
- ・楽に情報が入手できるようになった
- ・患者からのクレームが減った。
- ・休まなければならない日が減るから
- ・休みをとる必要がないため診療を継続できる
- ・休暇をとることが少なくなり、診療の穴は無くなった
- ・休診しなくても学会参加可能
- ・休診にしなくても良い
- ・休診対応が減った。
- ・休日を取らなくても良くなったことが増えた。
- ・勤務時間の都合上、現地に赴くことが難しく参加を諦めていた会議や学会などにも参加しやすくなった。
- ・空いた時間に参加できる
- ・隙間時間を有効に使える
- ・現場以外からでも会議講演に参加しやすい
- ・現地に行かなくてもいいことで、遠方の学会でも容易に参加できるようになり、知識を取得する選択肢が増えたと考えるため。
- ・現地に行く手間が省かれるので、勤務に穴を空けなくてもよくなる。
- ・現地に参加する必要性がなくなったため大学での時間が確保できる
- ・現地へ出張するために診療を休診する必要性が低くなったから。
- ・現地へ赴かなくてもいい会議では、無駄な移動がなくなり、その分他の業務に時間を割けるため。
- ・午前診療後、午後にオンラインで学会参加など、従来できなかったスケジュールができるようになった。
- ・効率化したと思いますが、オンラインだけでいいとは思いません。
- ・効率的になった
- ・拘束時間の減少
- ・最新情報へのアクセスの障壁が減った
- ・参加しやすくなった
- ・参加できる学術集会が増えたため、知識が深まった。
- ・時間の有効活用ができるようになった
- ・時間や場所に制限なく参加できることで、診療の制限を抑えることができたから。
- ・時間的余裕が出来た。
- ・自宅で参加でき、不要な移動の時間がなくなった。
- ・手軽にアクセスできるため、診療に穴を開ける必要がなくなった
- ・出張がなくなり、代診しなくて良くなったから。
- ・出張が減り、外来休診日が少なくなった
- ・出張が減ることにより診療時間が確保可能
- ・出張しなくても参加出来るため、診療を止める必要性が少なくなった。
- ・出張する必要がなくなったから
- ・出張による休診などしなくてよい。
- ・出張による診療抑制をしなくてよくなった
- ・出張やカンファレンスが減った分診療に回す時間がとれる。
- ・出張減少により使える時間が増えた
- ・遠方にわざわざお金と時間をかけて行かなくてよくなった分、診療に穴をあけずに済んでいる。
- ・場所を問わず参加できる。
- ・情報がどこにいてもとれるから。遠方に行かなくてすむから。
- ・情報が入ってくるようになったため、診療に生かせるようになってきた
- ・情報収集が可能になった
- ・職場を出る必要がなくなった
- ・職場内で参加できるから
- ・新しい情報が得られやすくなった

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・新しい知見を得る機会が増えた。
- ・新たな治療などをいち早く、また詳細に取り入れやすくなった。
- ・診療が忙しくても学会や講義に参加できるようになった。
- ・診療と研究会や学会が同時に行えるようになった。
- ・診療に影響を及ぼさずに会議等に参加できるようになった。
- ・診療に従事できる時間が増加した
- ・診療に長い時間を費やせるようになった
- ・診療に有用な知識を得やすくなった
- ・診療のカンファレンスがオンラインになったことより、「ながら」で他の仕事ができるようになった。
- ・診療の空きが少なくなった。
- ・診療の合間にも学会視聴が可能となったため。
- ・診療の合間に学会参加できる。
- ・診療の合間に講義が聞けるようになった。放送大学と同じような感じでとてもありがたい
- ・診療の合間に参加できるので助かります
- ・診療の合間の学会参加ができる。
- ・診療を休む回数が減ったので、医師にとってというよりは患者にとっても環境が良くなったと思う。
- ・診療を休止しないので超助かります
- ・診療を行いながらの参加も可能
- ・診療を中断して会議室や遠い学会会場まで行かなくて済むことが増えた。
- ・診療を必ずしも休まなくて良くなった。移動時間などを診療に使うことができる。
- ・診療業務への支障をきたすことが減った
- ・診療業務を休まずに学会に参加できるようになったため
- ・診療業務を休む必要がなくなったから
- ・専門医維持の講義など、受け身の学会参加を診療に支障なく参加できるようになった
- ・他院の医師と会議がしやすくなった
- ・多くの情報が手に入れられる
- ・大きな診療制限を行うことなく学会参加が可能となった
- ・単位の取得が容易になった
- ・地域の支援者を交えた会議が行いやすくなった。
- ・聴くだけはオンデマンドで時間と場所に縛られなくなった。
- ・長距離移動が減り、診療時間を確保できるようになった
- ・日常の診療業務を制限することなく参加できる。
- ・病院・外来・病棟を離れる機会が減った。
- ・病院にいて診療の合間に学会参加もできる
- ・病院にいながら学会に参加できるから
- ・病院に居ながらにして診療しながら学会に参加できるから
- ・不要な会議等の束縛時間が少なくなった。
- ・不要な出勤が減り、休みことへの抵抗が減る
- ・勉強する機会が増えた
- ・無駄な時間が減ったから。
- ・無理に現地に行かなくてもよくなった
- ・面談等がしやすくなった
- ・様々な経験を共有しやすくなった
- ・来られない人も状況がわかる

**変わらない

- ・MRからの情報提供を禁止されている意味はわかりません。今までは、すぐに情報提供できていたのですが、今はオンライン面談の日程調整を行っています。手間がかかりますので、皆さんへの情報提供にも差が生じてしまっています。
- ・あまり影響を受けないと思う
- ・あまり関係がないと思います
- ・あまり参加してないから

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・オンデマンドによる様々な学会への参加が可能になった一方で、対面式で新たに関係を持つことが困難となっている。
- ・オンデマンド配信が少ないため実際の開催時間は web で拝聴しないといけないため診療業務は休まないといけないのは変わらない。
- ・オンラインでの学会参加は利便性が高い一方で、現地参加の場合よりもスケジュール管理の面でプライオリティを下げられやすい。人によって学会参加の頻度は増減様々だと思うし、このような学会参加の頻度は診療の質に影響すると思うので。
- ・オンラインでの講義や会議・学会参加等は診療時間以外の問題
- ・オンラインでの参加時間が限られているため
- ・オンラインでの診療の普及は少ない。症例検討など、医師同士で相談する時間が増えれば質は上がるだろうが、新たに検討する時間が増えたわけではないので変わらない。
- ・オンラインではできない
- ・オンラインでも必要な情報は取得できるため。
- ・オンラインで行うことで変化はない
- ・オンラインなのでそこまで影響はない。
- ・オンラインにはオンラインに合った形式の講義を構築する必要があり、その分の手間があるため診療に費やす時間にはあまり変化はない。
- ・オンラインの機会は少ないから
- ・オンライン化が診療業務に与える影響はあまり感じない。
- ・オンライン会議が夜なので、今までと変わらない
- ・オンライン診療とは診療上関連が薄い。
- ・オンライン診療の導入が不十分
- ・オンライン診療は行っていないため。
- ・オンライン診療をやっていないためわからない。
- ・くだらない会議や学会への出席は減ったが、興味のない学生への無駄なオンライン授業などが増えた
- ・ずっと病院にいらることができる(休めなくなった)
- ・もともと学会に参加したことで診療内容に変化はないから
- ・やる事は大きく変わらない
- ・移動などの時間が減った良い面もあれば、講義・会議・学会などの回数が増加したためその負担も多くなった。
- ・移動時間が減ったが、準備の時間が増えた。
- ・影響ほとんどない。
- ・何かがかわった実感はない。
- ・回診制度がしっかりしているから
- ・学ぶ機会が増えたが、情報処理が追い付かず、実臨床に生かし切れていないため。
- ・学会がオンラインでも参加できるようになったのは、居住地が北海道なのでありがたい。ただ診療業務であるカンファレンスのオンライン化は、いつでも参加しやすい反面、プライベートの時間との区切りが難しい(出張中でも参加できてしまう)。
- ・学会では変わらないでしょ
- ・学会や会議と、診療行為はほぼ無関係だから
- ・学会参加による診療業務停止は少なくなったが、結果的に診療そのものには変わりはない
- ・学会場へ行かずともオンラインでアクセスできるのは良かった反面、学会場で過ごしていた時間を別で設けられるわけではなく、業務と並行して時間を使うため、中途半端になっている実感があったため。
- ・関係なかったから
- ・気分転換が無い。他施設の状況も知りづらい
- ・教育講演を聴く分には、対面でもウェブでも効果は変化がない。
- ・業務内容に変化ないため
- ・結局出席する人はするし、しない人はしない
- ・元々、オンラインでの講義や学会などへの参加が少ないです。わざわざ行く時間が短縮できるのはありがたいですが、診療業務の向上にはつながっていないと思います。
- ・現場がメインのため
- ・現場が大事
- ・現状変化していることはないと思っている。
- ・個人の意識改革が伴わないためか、従来の業務を同様にこなしているように感じる。診療を実働する世代の医師のなかで無益・無駄に感じる業務がある場合でも、直接に診療に深く携わらない管理者にあってはこれらを省略するために前向きに話し

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

合う必要性を感じているようにはあまり思えない。

- ・ 講義や会議、学会参加は診療業務時間外であるため関係ない。
- ・ 参加しないので不明
- ・ 参加する時間がない
- ・ 参加回数が増えたが、内容定着率は下がったように感じるため。
- ・ 参加機会は変わらない
- ・ 仕事量自体は変わらず。
- ・ 時間、場所を問わず学会や会議への参加が可能になったが、それがいいことばかりではない。
- ・ 時間外に研究会があるので診療にはあまり影響しない
- ・ 時間的な制約に変化がないから
- ・ 実感はない
- ・ 出張なしで学会参加などができる利点はあるが、そうであっても結局のところ、診療時間・診療の質自体は変わらない。
- ・ 情報に触れる機会が増えただけで、実践するまでにハードルがあるから。
- ・ 診療に直接的な影響はないから
- ・ 診療そのものにはオンラインがまだ始まっていないため。
- ・ 診療とオンラインの機会が増えたことは関係ないため
- ・ 診療とオンラインの講義・会議・学会参加はあまり関連が薄い。
- ・ 診療に、オンラインの影響は今のところ出ていません。
- ・ 診療においてオンラインを使用していないため
- ・ 診療については特に影響を受けていない。
- ・ 診療には影響しなかった
- ・ 診療には影響ないように思われます。
- ・ 診療に制限なく参加できた。
- ・ 診療に変わりはありません。
- ・ 診療のオンライン化などは、年配の医療従事者がついてこれず、制度設計の動きが鈍い。医療以外の産業の事例を応用することに、理解が及ばない人たちが(上手に)抵抗している。明らかに良くても阻まれて、いちいち説明して理解させるのに疲れる。
- ・ 診療の時間自体はかわっていないため
- ・ 診療はオンラインではないから
- ・ 診療は基本的に対面で行うため。
- ・ 診療は基本的に対面の為。
- ・ 診療は手術室で行っているのでオンラインは関係ない
- ・ 診療は大きく変わりようがないため。
- ・ 診療への導入が限定的
- ・ 診療業務には影響していない
- ・ 診療業務に変化があった実感はない。
- ・ 診療業務はもちろん、大幅に増える。これは当たり前のことで、学会のために抑えたリミッターが外れることから手術麻酔が増えるだけ増える。これは耐えられない。
- ・ 診療業務への影響が現時点でないと考えているため
- ・ 診療自体がオンライン化していないため
- ・ 診療自体はまだ対面を基本としたままだから。
- ・ 診療内容の質を維持する努力をしている
- ・ 精神科がオンラインの診療に不向きなため利用していない。
- ・ 多くの学会に参加できるのは良い。しかしオンラインだと集中して聴講することが難しくディスカッションもできないため、得られる情報の「質」が低下したと感じる。
- ・ 対面診療のため
- ・ 大きくは変わらないと思います
- ・ 直接の議論の場が減った反面、参加できる学会数が増えたため
- ・ 働く時間は変わらないと思います。
- ・ 特に仕事内容や質に変化を感じない
- ・ 特に支障がないため。
- ・ 日常診療にはあまり関係ないから

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・微差ではあるが出張不要となり診療の余裕が増えた。そこまでして労働しなければいけない悪循環とも言えるが。
- ・必要な診療は行う
- ・平時で実感がない
- ・変化はあまりないように思います
- ・利点は時間の確保が前よりもしやすくなった点があるが。
- ・利用していない
- ・良い面も悪い面もあって一概には言えない。
- ・良くなって点も悪くなって点もある。良い、悪いの単純は話ではないと思います。
- ・臨床の勉強はオンラインでもできる
- ・労働時間との兼ね合いがあるので、オンラインで講義・学会できることの影響はない。

**悪くなった

- ・オンラインでは通常業務を行いながらとなるため、学会参加時間が減り、知識習得が不十分となる。
- ・オンラインで学会に参加しても結局病院の仕事に呼ばれるので、更に疲弊する
- ・オンラインと診療が並行なため。出張申請していない分、診療しながらライブで学会を見るはめになった。
- ・オンライン参加は、形式だけの参加になりがちのため。
- ・院内で学会参加をしていると結局呼ばれてしまい、学会に集中できない
- ・会議が増えた
- ・会議の内容が頭に入らないため
- ・会議中に診療の電話がかかり、どちらにも集中できない
- ・学会での新しい情報の入力が減った印象がある。
- ・学会に参加しているはずの時間に診療に駆り出される
- ・学会の最中にも診療の依頼があり、学会の成果が下がった
- ・学会期間中も日常診療が継続できる一方で、現地開催では出来ていたロビーでの症例相談などができなくなり、また同年代との交流による切磋琢磨も乏しくなり、総合的には悪くなったと思います。
- ・気を遣わないといけないこと(感染症対策など)が増え、業務を圧迫している。
- ・勤務時間が少なくなったから
- ・研究と同じだが、時間や人数が限定的で内容を膨らませていくことが難しい。診療におけるちょっとした相談事の機会が少ない。
- ・現地に参加しなくて済むので、病院業務しなくてはいけなくなった
- ・視聴内容にあまり身が入らない。
- ・時間外でもコンサルトが増えた
- ・出張してオンコール、呼び出し、当直業務から一定時間退避できることも重要なことだが、それがなくなりストレス。
- ・常勤施設滞在時間の減少による業務の質の低下
- ・新しい機材の展示には実際に行かないと見られない
- ・診療の合間にオンラインで学会参加しなくてはならない状況が発生した。
- ・診療の途中での参加のため、1日の業務を一時中断しなくてはならなくなった。以前までは、1日休んでいたため、気持ちの切り替えが容易だった。
- ・診療の負担が増えた
- ・診療業務を行いながら学会などに参加しなければならず落ち着いて参加できない。
- ・診療時間にオンライン会議が入る場合がある。
- ・正規の労働時間内において突然の会議や参加で、診療時間枠の変更を余儀なくされることがある。
- ・他施設の先生との会話が減ることにより、情報共有などができない。
- ・他職種との直接的なやりとりが減少している。
- ・対面して気軽にコミュニケーションをとることで得られていた教科書的でない実臨床に即した知識が少なくなっている
- ・壇上での議論以外の雑談と呼ばれる情報交換が診療に役立つから。
- ・知識を求めないと得られない時代になった
- ・動画の録画、登録など余分な手続きが増加した。
- ・物理的に診療と区切られないためどちらにも身が入らない
- ・聞いていない

助教・女性

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

**良くなった

- ・オンサイトだったら参加できない状況でもオンラインやオンデマンドがあれば、遠方に行かなくても最新の知識を得られるから。
- ・オンデマンドで最新の知見が多く聞けるため
- ・オンラインで学会に参加すると、移動がなくなり、診療日を減らす必要が少し減った。
- ・オンラインで学会に参加できるようになり、知識の習得機会が増えた。
- ・オンラインで多職種カンファレンスがやりやすくなった
- ・オンラインで勉強会や学会参加できるのはありがたい。
- ・オンライン会議・学会の活用により、診療時間が確保できるようになった。
- ・オンライン学会参加が可能の場合、視聴の際のみ参加でき、診療業務にあてる時間が増えてよい。
- ・オンライン診療は患者さん医療者双方にメリットは大きいと思います。
- ・カンファレンスが自宅から参加できる。
- ・カンファレンスも Web 参加できる
- ・カンファレンス時間に家に帰れて、参加出来るのは有り難いです。
- ・これまでは育児のため時間外のカンファレンスに参加できなかったが、オンラインだと自宅から参加できるため、とても助かった
- ・コロナ科で受診が難しい人にも継続診療が可能となった
- ・さまざまな方法で情報を得られるようになった。
- ・ハイブリッドの学会が増えたことで勉強はしやすくなりました
- ・わざわざ学会会場に行かなくてよくなったため、移動時間を診療に費やすことができ、診療日程がある程度くみやすくなったと思われるため。
- ・わざわざ現地に行かなくていいので、診療時間は確保しやすい
- ・移動が少ないから
- ・移動が不要のため休診しなくて済む
- ・移動が無いので自分の患者さんを見る事ができる
- ・移動などのロスがない分診療時間に充てる時間は確保できる
- ・移動などの時間が省かれる
- ・移動に時間をとられないため、診療時間の調整が減り、診療業務が圧迫されなくなったため。
- ・移動に費やす時間が少なくなり診療に余裕をもてるようになった
- ・移動や宿泊なしで最新の知見を得られるようになったため。
- ・移動時間がないため、診療時間を確保しやすいため。
- ・移動時間が軽減し、外来や手術の制限が少なくなった
- ・移動時間が減るため、診療業務の時間は増えると思うから
- ・移動時間が必要なくなり、診療に割ける時間が増えた
- ・移動時間が無くなり診療時間が増加した
- ・移動時間などの減少や体力温存で診療での体力や時間の負荷が減ったので。
- ・移動時間の短縮により、休診すべき機会が減った。
- ・移動時間短縮で時間ができた
- ・育児で自宅にいるときもカンファレンスに参加できる
- ・育児中でも参加できる
- ・遠くの学会でも業務を休まずに参加ができるから
- ・遠隔での学会参加が可能になり、診療時間が確保されるようになった
- ・遠隔地へ出向く必要がなく、宿泊や移動による診療時間の削減がなくなる
- ・遠方の学会に出向く必要がなくなった
- ・遠方の学会参加のために前日の診療業務を縮小しなくてよくなった。
- ・遠方の施設ともオンラインでカンファレンスができるようになったから
- ・家族の介護で参加できなかったものに参加しやすくなった
- ・家庭で参加できるのでパートナーの負担を減らしつつ学習の機会を得ることができる。
- ・会議・学会による不在時間が減少したので、滞りなく診療できる。
- ・会議や学会参加がオンラインだと、移動時間が減るので診療に時間がまわせる。
- ・会議直前まで仕事ができる
- ・会場までの移動時間が無くなったので診療時間は増えた。
- ・外来を休診せず参加できるようになった。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 外来を止めなくても学会に参加できるようになった。
- ・ 外来休診日や手術できない日などが減った。
- ・ 外来業務制限などが減ったから
- ・ 学会に行かないでもオンラインでできるので休診にしなくてもよくなってきた。
- ・ 学会に行く交通時間がなくなったことで診療に使えるようになった
- ・ 学会に参加しやすくなり、知識を update しやすくなった
- ・ 学会に出向くことが減り、診療に穴をあけることが減った。
- ・ 学会の日に私は院内業務を任せられることが多く、自分の専門医の単位を取りに行くことも困難で困っていたが、学会がオンラインの間は院内業務しながらでとりあえず単位を取ることができていたのでよかった。でももう学会も現地開催ばかりになり、今後単位が取れなくなるのがまた心配である。
- ・ 学会への移動時間がとられなくなり、仕事を休まずに学会参加できるから。
- ・ 学会や会議参加のための出張がなくなり、診療に費やせる時間が増えた。
- ・ 学会会場に行く予定をとらずにすむから
- ・ 学会参加がしやすくなった。同時に開催されるシンポジウムをあとから視聴できる。
- ・ 学会参加で県外に出なくて済むので休診などが必要なくなった。
- ・ 学会参加のため、手術件数を制限されるなど臨床面での負担も減った
- ・ 学会参加のための出張日数は減った。
- ・ 学会参加のため外来を休診にしなくてよかった。
- ・ 学会参加の機会が増える、移動などの時間短縮が可能
- ・ 学会参加の時に休診にする日数が減った
- ・ 学会参加中に休診としていた枠も仕事できるようになった。
- ・ 学会等に参加しやすくなり勉強の機会が増加した
- ・ 学会発表と同日に診察もできるのは生産性の向上だと思います。
- ・ 患者の診療時間は増える。残念ながら、学位持ち医師が減っている中、これしか経営を良くする方法がない。
- ・ 丸一日学会出張しなくても、半日診療、半日オンラインでの学会参加ができた
- ・ 基本的に学会は遠方のため、育児中は参加できないことも多く、現地に行かなくても勉強機会が得られるため。
- ・ 気軽に専門外のセミナーにも参加できるようになり、知識が増えたと思う
- ・ 休みをとって学会に参加しなくてもすむので診療が滞らない。
- ・ 休診が減ったと思われる
- ・ 休診にしなくてよい、その調整も不要になる
- ・ 休診日を作らなくて良くなったが、まだ平日のオンライン開催もあり、それは逆に休みがとりにくく参加しづらくなった。
- ・ 業務を休止せずに学会などに参加できる
- ・ 県外へ移動を伴う会議がオンラインになったり、講義をオンデマンド配信にしたりすることによって、その時間を診療業務にあてることができた。
- ・ 現地に行かずにすむため仕事を早く切り上げずにすむようになった
- ・ 現地に行くための移動時間が無くなり、診療を制限する必要が無くなったから。
- ・ 現地に赴くために(移動)診療業務を調整する必要がないので。
- ・ 現地に赴く必要がなくなったため。
- ・ 現地への移動時間を節約できるから
- ・ 現地開催の学会に行く手間がなくなり、その分通常診療業務に当てられる
- ・ 現地参加の場合は、その期間に診療を休まなければならなかったが、オンライン参加の場合は、日程調整に小回りが利くため、診療を終日休む必要がないから。
- ・ 効率的になった
- ・ 効率よく勉強できるようになった。海外の講演なども聞けるようになり情報が得られやすくなった。
- ・ 最新の情報を気軽に入手できるようになった。恐らく地域格差も是正されるのではないかと思う。
- ・ 参加しやすくなった。
- ・ 子育てをしながらでも学会に参加しやすくなったので、新しい知識を手軽に手に入れることができるようになったため。
- ・ 子育て中でも参加しやすくなった。
- ・ 子育て中でも知識のアップデートがしやすく、会議などにも参加しやすいため。
- ・ 時間が効率よく使えるようになった
- ・ 時間が増えた

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・時間の節約、すきま時間の有効活用ができるようになった。
- ・時間の節約になり、その分診療業務に時間が回せる
- ・自己研鑽がしやすくなった
- ・自宅からでも自己研鑽や情報収集ができるため。
- ・自分がずっと見ている遺伝性疾患の患者さんを診療されている先生のお話を聞け、問い合わせ先を伺えた
- ・自分の専門外の学会やセミナーに参加するハードルが下がり、自分の診療の幅が広がった。
- ・出張しなくてよくなった
- ・小さな子供がいるため、オンラインで会議や学会参加できることはとてもありがたかったため。
- ・場所に向くための時間の短縮
- ・情報を得やすくなったので診療の質向上に繋がる
- ・診療が多忙で学会に行けなかったが、行けるようになり、結果的に臨床に還元できる。
- ・診療で参加できなかった学会や研究会に参加でき知識が増える。
- ・診療にあたる時間は増やせるようになった
- ・診療に影響する時間が減った
- ・診療に穴をあけることが少なくなった。
- ・診療の合間に参加可能なため
- ・診療を休まずに学会参加可能になりました。
- ・診療を休む機会が減った
- ・診療を休む必要がない
- ・診療業務を止めて出張する必要がなくなった。
- ・診療時間を確保しながら参加しやすくなった
- ・診療上必要な知識や、専門家の意見を伺う機会が増えた。
- ・人員が確保できる
- ・選択肢が増えた
- ・全国の様々な勉強会に参加できるため、知識が増え、診療に役立てることができる
- ・他院のやり方や現在の診療方法を学べるため
- ・知識のブラッシュアップがしやすい
- ・地方から東京へ移動する無駄な時間を診療にあてることができた。
- ・長距離移動する必要がなくなり、診療を止めずに学会参加できるようになった
- ・電話再診ができるようになったのは良い。
- ・得られる知識が増え、診療に還元できていると思うため。
- ・入院患者に何日も連続で主治医不在の診療をしなくてもよくなった。
- ・病院を離れることなく、研究会などに参加でき新しい知識に触れる機会があるため。
- ・片手間に参加できる
- ・勉強できる機会が増えた

**変わらない

- ・オンラインでできる範囲に限界がある
- ・オンラインでも同じ質で会議が可能だから
- ・オンライン診療などが可能となったメリットがあると思うが、自分自身はまだオンライン診療などには従事していないためわからない
- ・オンライン診療はすすんでない。自宅から電子カルテとか見られればベスト
- ・こっちは会わないと意味がない
- ・そのように感じるからです。
- ・もともと最優先だったから
- ・もともと対面の仕事ではないため
- ・異動のため、診療のほとんどは診察のため、ほとんど変わらない。
- ・移動時間が不要になったがいとと呼ばれるから学会に集中できない
- ・影響がほとんどないため。
- ・学会参加に関しては、時間外に見られるため、診療後にも可能となったが、仕事量としては増えていると感じる。
- ・学会等へは参加がしやすくなった。一方で一方的な学会・講義も増えて、質疑がしづらくなった。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 休診にする理由がなくなり、診療も行いながら学会参加するようになったため。
- ・ 休日に学会参加しているため
- ・ 結局診療は対面が主体
- ・ 現実的な変化が乏しかった
- ・ 講義や学会は診療が終わってから、診療時間外に参加することが多いため
- ・ 仕事内容や量は変わらないから
- ・ 時間の節約にはなっていない
- ・ 治療が必要な患者さんは来院されるため変化はありません。
- ・ 実感できることはないです
- ・ 実際に専門家と会って話せるなど、現地参加のメリットも大きい。
- ・ 診療か学会のどちらかに専念する必要があるので。
- ・ 診療していない
- ・ 診療と直接関係がないため
- ・ 診療にかかる時間は同じ
- ・ 診療には何の影響もない
- ・ 診療の機会が少ない。
- ・ 診療の合間に学会参加するから
- ・ 診療の合間に参加できるのは少しメリットがあると思うがあまり変化は感じない。
- ・ 診療は直接なので。
- ・ 診療以外の時間を使っているので特に変わらない
- ・ 診療業務が多すぎるため
- ・ 診療業務には関係ないため。
- ・ 診療業務の量は変わらないから。
- ・ 診療時間外でするので影響がない。
- ・ 特に診療業務に変化はなかった様に思います。
- ・ 特に変化を感じないため。
- ・ 不在になることが減ったことは診療にはよいのかもしれないが、直接の他との交流がないため、還元できる部分は減ったのではないか
- ・ 麻酔科としてのオンライン診療はほとんどなかったため、影響がなかった。

**悪くなった

- ・ 「診療業務が悪くなった」のではないが、WEB 学会が増えて、学会で診療業務を休むことがなくなり、学会のオンラインやオンデマンド視聴もさらに余分に時間を捻出しないといけない。
- ・ オンデマンドでの学会であると、学会のため病院を休めず、結局、休日に学会の講演を聴くこととなる。仕事量は増えている。
- ・ オンラインだと、バイトを休みづらい
- ・ オンラインでの学会や研究会ではその時間に学会や研究会だけに集中して参加することが難しく、実臨床での知識の更新がやや疎かになっている。
- ・ オンライン学会へ参加する場合は、出張しないため、病院の通常業務をこなさなければならない。
- ・ かえって診療と会議や学会の調節がややこしい
- ・ 意思疎通の難しさをたまに感じる
- ・ 会議や学会に参加しながら診療するので、仕事が増えている。
- ・ 学会や会議参加のために時間を空けていたがオンライン参加ができるため診療の合間に会議に参加するようになり、診療の質の低下、会議参加への質の低下が懸念される。
- ・ 学会期間の休暇を得られないことから学会参加の機会は逆に減ったため
- ・ 学会参加中も診療業務から完全にフリーにならない。会議は参加者の多く集まる時間帯を設定すると日勤帯以降に設定されていることも多い。業務内容をかなり調整しないと負担が大きい。
- ・ 学会出張ができず、オンラインで参加する時間も与えられず勉強の機会は減った
- ・ 気軽に学会参加できるようになったが、学会中も通常診療を続けなくてはならず、空いた時間にオンラインで参加せざるをえなくなった。
- ・ 休息がとれない
- ・ 業務中に学会参加しなければ行けない雰囲気になった

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 現地にいかなくてもよいので、仕事せざる負えない
- ・ 現地参加の方が、その後の対面ディスカッションなどから講義内容が記憶に残りやすい。
- ・ 拘束時間が増えた
- ・ 新しい知識を自分から求めないと入ってこない
- ・ 診療のタイミングを逃す人が多い。
- ・ 同時進行できるため医師負担が増えた(診察しながら web で会議に参加など)
- ・ 特に若手の教育が難しくなった
- ・ 必要とときだけオンライン参加ができてしまうので、前は出張を理由に休診にできていたところが休めなくなった。

助教・回答しない

**良くなった

- ・ 移動時間が減った
- ・ 外来の合間にも参加可能
- ・ 出張がなくなったため、休診することがなくなった。

**変わらない

- ・ 学会に参加できるのは業務が終わった後か、土日なので影響がない。
- ・ 個人的にオンラインをほぼ使用しないため。

医員・男性

**良くなった

- ・ カンファレンス参加がしやすいため
- ・ これまで参加しづかった学会や講演会に出席でき、新たな知見を広めやすくなった。
- ・ さまざまな学会により参加できるようになったため
- ・ しがらみはなくなった。オンライン化でネットワークは軽くなった
- ・ ネット環境を使った相談などがしやすい雰囲気にはなりました。
- ・ より簡便に情報にアクセスできるようになったため
- ・ より様々な形で診療に従事することができるようになったため。
- ・ わざわざ現地に行かなくて済む。計画が立てやすい。
- ・ 移動時間がなくなった
- ・ 移動時間が省かれ、診療に費やす時間が増やせた
- ・ 移動時間短縮のため。
- ・ 移動日分で休む必要がないから
- ・ 遠隔での講演に参加できるため。
- ・ 遠隔のため、移動に時間がかからない。
- ・ 遠出しなくていい
- ・ 遠方への複数日程での出張が減ることで診療時間が増えた
- ・ 会議や学会のために処置の制限等をする必要が以前より減ったため、搬寄せが来る日が減ったため。
- ・ 学びの場が増えた
- ・ 学会で不在で院内にいない人が減ったと思います。
- ・ 学会で不在にすることが少なくなった。
- ・ 学会などに参加しやすくなったことで、最新の知見を取り入れやすくなった。
- ・ 学会に現地参加するために不在となる期間が短縮された分、患者への負担が減った
- ・ 学会に参加しやすい
- ・ 学会のオンライン視聴はとても便利
- ・ 学会のために外来を休まなくても済むようになりました
- ・ 学会の移動時間が減った分を診療に回せる
- ・ 学会の講演を参考にしやすくなった。
- ・ 学会は直接会場にいかなくて済むようになったため、その移動の時間等を考慮せずに診療に従事することができるようになったため。
- ・ 学会会場までわざわざ長距離の移動をする必要がなくなったから。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・学会参加で人数が奪われないから
- ・学会参加のために遠方に行く必要がなく、ギリギリまで業務できるようになった
- ・学会前日入りが不要となったため、前日診療に支障が無くなった。
- ・学術講演会に参加しやすい
- ・割ける時間は増えた
- ・感染リスクを減らすことができた。効率よく業務を行えることで診療業務の時間を増やすことができた。
- ・休診日が少なくなった。
- ・現地にいかずともよいため、診療業務に割ける時間が増加するから。
- ・現地に行く時間が節約できた
- ・現地に赴かなくても参加できることで、その他の業務などに当てられる時間が増えたから。
- ・現地まで行く必要がなくなった。
- ・現地参加しなければ診療を行いながら学会に参加できるため。
- ・交通費が掛からなくなった
- ・効率よくできるようになった。
- ・講演会などがウェブ視聴できるため、参加しやすくなった。
- ・今まで実地のみだったのがウェブで参加できるようになったから
- ・最新の知見が得られやすくなった。
- ・在院出来る時間が増えた
- ・参加が気軽になれば診療に feed back する機会も増えると思われる。
- ・参加する学会が増える分得る情報が増え、それを診療に活かせるため。
- ・時間ができるようになり、患者や研鑽に割ける時間が増えた
- ・時間を確保しやすくなった。
- ・時間を有効活用できるため診療への時間配分に繋がるから
- ・時間制限がなくなったことでより診療に集中できる
- ・時間的余裕ができた
- ・出張しなくても良くなったので、空いた時間に気になる患者の診察ができるようになったため。
- ・出張する医師が少なくなった。
- ・職場や家庭から参加できる
- ・色々な講演、研究会への参加を通じて知識が深まったから。
- ・新しい情報を得られやすくなった
- ・診療との両立が比較的容易になった。
- ・診療の合間に参加できるようになった。移動時間が短縮された。
- ・前述。現地に行けなくても勉強の機会はあるべき。
- ・知りたい知識をオンデマンドやオンラインセミナーで受講できるようになった
- ・知見が増えました。
- ・知識は増え、学会参加などのために休む必要がなくなった
- ・電話診療
- ・電話診療などによって時短になったから。
- ・当直や日中の診療などの制限が減った。移動時間を考慮した業務調整も減った。
- ・特に学会に関して移動時間が無くなったのと、オンデマンド配信により、無理にでも時間までに業務を終了する必要がなくなったため
- ・病院にいても参加出来るので、
- ・病院を離れなくても良くなった。
- ・平行して診療業務を進められるようになった
- ・様々な著名な先生のセミナー等をウェブで受けられるようになり、診療力の向上につながっている。

**変わらない

- ・オンライン IC のシステムがない、IC 等の自動音声記録等が進まないで医師は説明を記録する時間の分の仕事を減らせない。
- ・オンラインで学会参加するなどして、情報収集できる。
- ・オンラインで参加する機会は増えたが、現地での参加が少なくなった影響もある。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ オンライン診療をまだ利用したことがないから
- ・ 影響がない
- ・ 患者を診察しないと病状が分からないため。
- ・ 患者本人を実際に診療しないとどうしようもない部分が多いため
- ・ 業務量が変わらない
- ・ 勤務初年度のため比較できない
- ・ 現時点でオンライン診療などの経験がなく、変化を実感したことがないため。
- ・ 現地参加しなくても診療・治療に関する一般的な情報は得やすくなった。ただし、細かい部分については、一般参加者との話が得られないため得難い。
- ・ 口腔外科の特性上オンライン診療は困難
- ・ 仕事量は変わらないから
- ・ 準備などは変化なし
- ・ 診療での対応は変わらないため。
- ・ 診療の合間に講習会を聞くことができるようになった
- ・ 診療は外来や病棟、検査室で行うため
- ・ 診療は対面式だから。
- ・ 診療を休む機会が減ったが、同時に学会が片手間の参加となり理解度が低下している
- ・ 診療業務ではオンラインは取り入れていないから。
- ・ 診療業務とは関係ないと考えます
- ・ 診療時間外に行っているため。
- ・ 大して役に立っていないから
- ・ 大学にしながら学会に参加できるので診療に影響なし
- ・ 特に診療への影響は感じない
- ・ 普段通り行うことがよい

**悪くなった

- ・ オンラインの学会・講義で参加しないことが増えたため。
- ・ ただただ、時間が取られる。
- ・ どこにいても必ず参加しなければならない。
- ・ 学会に行くための休みが取れなくなった。
- ・ 学会参加の時も大学に居ると診療に従事せざるを得なくなる。業務量が増えた。
- ・ 逆に休みを取りにくくなり、間に就業することさえある
- ・ 現地参加へのモチベーションの低下
- ・ 最新情報のアップデートが困難になった
- ・ 症例の提示がやや不十分になりがちであるため
- ・ 他の医師との交流が減ったため
- ・ 他施設の状況が見えにくくなった
- ・ 余計な業務が増えた。

医員・女性

**良くなった

- ・ 精神的肉体的負担が減りその分体調管理がしやすくなるため
- ・ web 講演会が増えて自宅で講演会を視聴できるようになった
- ・ オンオフがはっきりしたため。
- ・ オンラインは参加しやすい
- ・ オンライン参加で良いなら休診にしなくて済むため。
- ・ 悪天候で病院に行けなくてもオンライン診療が可能になった点はよかった
- ・ 圧倒的に参加しやすい
- ・ 移動がないので、空いた時間に参加できるようになった。他スタッフの負担が減った。移動の費用負担がかなり軽減した
- ・ 移動にかかる手間が減った。
- ・ 移動を含め拘束時間が減るから。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 移動時間がないことで仕事を休まずに学会参加ができる。
- ・ 移動時間がないので、仕事が忙しくても参加できる
- ・ 育児中でも参加できる
- ・ 遠方に行かなくてすむため休む時間が減るから
- ・ 遠方の学会にも参加しやすくなった。
- ・ 遠方の学会に行く必要がないため、その分診療に専念できる。
- ・ 外来を閉じずにオンデマンド配信を見ることができ、診療にメリットがある。
- ・ 学ぶ機会が増えた
- ・ 学会による診療停止がなくなった
- ・ 学会のために移動時間を考慮して外来を閉じる必要がなくなったため。
- ・ 学会や講演会に参加しやすくなったと思う。
- ・ 学会参加がオンラインとなったことにより、地方学会で1日手術や外来を止める必要が最低限になった。
- ・ 学会参加に伴い、自分の外来をしめたり、代診を頼んだりしなくてよくなった。
- ・ 学会参加のための移動時間がなくなるため、診療を休まなくてもよい点
- ・ 学会参加のための休診の減少
- ・ 学会出張のために休診にする必要がないため。
- ・ 患者家族への病状説明において、家族の来院がオンライン説明で代替可能となり、治療、治療後のスケジュールがスムーズに進められるようになった。家族のスケジュールに合わせる場面が少なくなった。
- ・ 業務に支障を及ぼしにくくなった
- ・ 兼業先からでも大学の会議に参加することができ、兼業先の診療時間を短縮しなくて済むようになった。
- ・ 現地にいかなくても学会に参加できるので診療の制限は減る
- ・ 現地に行かなくても日々の診療を行いながら参加できるため
- ・ 現地に赴かなくてもいいため、移動に費やす時間を診療に充てることができる。
- ・ 現地参加の医局員が減ったため、実働できる医局員が少なくなることが減った
- ・ 最近の疑問に対しての知識を得やすくなりました。
- ・ 最新の話題を知ることができるから
- ・ 参加しやすくなったから情報を得やすくなった。
- ・ 参加できる機会が増えた
- ・ 仕事を休まなくて済む
- ・ 子供が小さくて遠方の学会や夜の勉強会はこれまで全く参加できなかったのが、オンラインで発表も出来るので参加しやすくなった
- ・ 子供の預け先がない時も在宅で参加できる
- ・ 自宅でも勉強できるから。
- ・ 出張が減った
- ・ 出張による人員不足が減った
- ・ 場所や時間を選ばないため効率よく参加できるため
- ・ 色々な情報を得ることができるから。
- ・ 新しい情報にアクセスしやすくなったと思うから。
- ・ 新しい知見を入れられる。学会に行くために外来を閉めなくて良い
- ・ 新しい知識を入れる機会が増えた
- ・ 診療で参加できない遠方の学会もwebで勉強できる。
- ・ 診療における、最新の知見を得られる機会が増えました。
- ・ 診療に役立つ内容の講演会も、自宅にいながら参加できるようになったため
- ・ 診療のための最新の情報を得やすくなった。
- ・ 診療を継続しながら参加できるようになったため
- ・ 診療時間外に家で少しずつオンデマンドで学会の講演視聴できるようになったから。
- ・ 知識が増えた
- ・ 勉強の機会は増えた
- ・ 無理に時間を捻出するために急がなくても良くなったと思う。
- ・ 来院不要な患者がオンラインになった
- ・ 旅費への制限があり、遠方へ行くのを遠慮していたがオンライン学会が増えたので参加しやすい。知識を得やすい環境になっ

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

た

**変わらない

- ・オンラインで気軽に遠隔地の方々とカンファレンスできるようになったのはよかったが、院内でもオンライン会議が増え、微妙なニュアンスが伝わりにくいことがある。
- ・オンラインで参加しながら診療できるが、よいことか不明
- ・時間帯が違うので
- ・とくに影響なし
- ・メリットデメリットともにある
- ・学会がオンライン参加になるだけ。
- ・学会参加中は外来を閉じているため
- ・関係ないと思います。
- ・元々、学会参加については自己研鑽の部分が大きく、オンラインでプライベートの時間を使って参加できるので、診療にはさして影響はない。
- ・個人情報観点からオンラインを有効活用できない
- ・診療には影響がない
- ・診療自体に直接的な影響はないため。
- ・診療自体はオンラインに影響していないため
- ・診療自体への大きな変化はないように感じている
- ・直接的に関係がないと思うから
- ・特にもともと会議や講義が多くないため
- ・特に診療には影響しなかったから。
- ・非常勤勤務なので、変化を感じにくいから。

**悪くなった

- ・オンラインでやるなら、本来の学会時間は働かさせられるようになったため、結局夜の隙間時間に視聴しないといけなくなり、学会参加に時間をかけられなくなった。学会に参加したいのに、思う存分参加できなくなった。
- ・会議等は対面のほうが良いと思う
- ・学会期間がなくなり、通常業務日が増えた
- ・視聴可能な学会は増えたが、自分が発表者の際でも仕事を休みづらくなった。つまりオンデマンドで発表すればいいので何故休む？と。それはつまり頑張って演題が採択されても学会会場に行かせてもらえないので、発表に対するモチベーションが低下した。
- ・診療の時間が増えた(有給が取れない)
- ・診療は減らしていないため、参加したい講演に参加できない。

専攻医・男性

**良くなった

- ・あまり関連はないと思う
- ・いつでもどこからでも参加できる
- ・オンラインでのカンファレンスなどが開けることで、効率化されている。
- ・オンラインにより場所の融通が効くようになり参加しやすくなった
- ・オンライン会議では移動時間が無いため、診療に影響することが相対的に減った。
- ・移動に時間をとられないため
- ・移動のための時間が減るから。
- ・移動の手間が省ける
- ・移動時間の短縮
- ・遠くまで行く必要がなくなったから
- ・会議がオンラインになり、時間が使いやすくなった
- ・外勤先でもカンファレンスに参加できる。
- ・学んだことがいかせているため
- ・学会などにかかる時間が短縮され、かついつでも視聴できる環境は、知識の収集においては有利であると考えられるから。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ 学会出張による移動が減り、前後に休みを取る必要がなくなったため
- ・ 現地に向かわなくても良いため、診療時間が増える。
- ・ 現地に行かないことで時間が節約できたから。
- ・ 現地参加と比べて参加しやすくなったから
- ・ 実地に行かずとも簡単に受講することができるため、時間的余裕ができるため
- ・ 準備時間や移動時間が減るので、その分診療に余裕ができる
- ・ 純粋に勉強できる機会が増えたから。
- ・ 場所を問わなくなった
- ・ 単位取得のある地方開催の学会や、これまで日常業務量により参加が躊躇われていた遠方の講演会などに参加しやすくなった。
- ・ 電話診療の活用が増えた
- ・ 不必要な移動削減による病棟業務時間確保
- ・ 普段関わらない人も関わられるようになった

**変わらない

- ・ あまり診療にオンラインが関わる場面が少ないから。
- ・ オンラインでの診療はしていないため
- ・ オンラインに対応していない
- ・ オンライン講義などの参加頻度変わらないため
- ・ オンライン診療が導入されていないため
- ・ オンライン診療の経験なし
- ・ リモートで診察できる設備がないから
- ・ 以前を知らないので不明
- ・ 学会発表は休日なので無関係
- ・ 関係がない
- ・ 業務量は変わりなし
- ・ 勤務時間にそこまで変化はないから。
- ・ 現時点で診療業務への大きな影響はないため
- ・ 現場でやり方は変わってない。
- ・ 行う仕事量は変わらないため。
- ・ 今年から赴任しており、比較検討は難しい。
- ・ 診療とは別と考える。
- ・ 診療にかける時間はやや減るかもしれないが、短時間で集中し、質の向上は見込めるかもしれない。ただ医療現場は時によって忙しさは変わるため、しょうがなく対応せざるを得ない状況はあると考える。
- ・ 診療は対面が必ず必要になるから
- ・ 特に変化を感じない。

**悪くなった

- ・ オンラインのため、診療優先になり参加できないことも多々ある。そのためオンデマンドを使用する。
- ・ 繋がらないことがある。
- ・ 結局上がオンラインを使いこなせない

専攻医・女性

**良くなった

- ・ オンラインで参加できるから
- ・ わざわざ遠出の必要がない
- ・ 移動せずに済むので、病棟業務しながらの参加も可能になった。オンラインでの講義や学会参加により情報収集しやすくなった。
- ・ 移動で疲れたりしない
- ・ 移動という無駄な時間を削減できた
- ・ 移動のために休まなくてよい

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・移動の必要がなくなったことや、勤務先から参加できるため。
- ・移動時間が減った
- ・移動時間が減り診療業務に割ける時間が増えた
- ・移動時間が取られないのは良いです
- ・移動時間のムダが減り両立できるようになった
- ・移動時間短縮になり時間ができた。
- ・会場に出向く時間が省けるため
- ・会場までの移動がなくなりその分時間が避けるようになった。
- ・学会などで学んだことを診療に生かすチャンスが増えた
- ・学会に行く時間が減ったため
- ・学会のために移動する時間を要さず、その分診療業務の準備に充てられるため
- ・隙間時間に参加するという形もとることができるようになったため
- ・現地に行かなくても学会参加ができるので、日常診療に穴が開くことがない
- ・参加したくても病院を離れられず参加できなかったが、オンライン聴講で渡航せず参加することができるようになったから
- ・参加しやすい
- ・時間効率が良くなったため
- ・時間短縮
- ・自分が有意義に使える時間が増えて、スキルアップのための時間に充てることが可能になったからです。
- ・診療しつつも学会参加できるから仕事に穴が空かずに済む
- ・診療時間をほぼ減らすことなく学会等に参加できるようになった。
- ・勉強会など前より参加しやすくなった。結果的に診療の質も上がるのではないかな。
- ・勉強会に参加する機会が増えたから
- ・本来現地であれば参加できなかった学会にも気軽に参加できる。開催期間中に何度も動画を見ることで知識の定着をはかれる教育、研究、診療に活かせるから。今後もぜひ続けてほしい習慣である。
- ・勤務地から出張する必要がなくなったため、通常の勤務への影響が少ない。同僚の不在によるしわ寄せが減った。

**変わらない

- ・オンライン講義と診療に関わりがない
- ・オンライン前の実態を知らないから。
- ・オンライン増加後、育休のため働いていないので変化はわからない
- ・そんなに増えていない
- ・学会参加できていない
- ・関連不明
- ・業務は変わらない
- ・現地参加でないと、休みを貰えず学会中も通常勤務することにはなる
- ・自身のすきま時間を利用しているので、少なくとも業務に支障はでていない。
- ・診療に変化なし
- ・診療はオンラインになっていないため
- ・特に変わりありません。ただ、学会に参加しやすくなり、新たな知識に触れる機会が増えました。

**悪くなった

- ・オンラインでの参加を強制され、学会は現地に行かせてもらえなくなった
- ・オンラインで学会参加ができる分、学会発表がある日も通常診療をすることになり、他の参加者の発表を聞く時間がない(自分の発表が終わったらすぐに業務に戻らなくてはいけない)
- ・オンラインの勉強会はあまり集中力が続かない。
- ・回診のオンライン化で、教授へのプレゼンが難しくなり、より多くの情報を伝えなければいけないために、回診の時間が長引いて他の業務に支障をきたす。
- ・現地参加の学会が減り他県の医師との情報交換ができなくなり、知識を得るツールが減った。

臨床研修医・男性

**良くなった

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

- ・ オンラインセミナーで学んだことを臨床に生かしている。
- ・ オンラインになった事で診療時間の短縮が少なくなった。
- ・ 移動時間が減ったので
- ・ 医局で見られるから
- ・ 実際に現地まで行くことが無い分、日常業務への負担も軽減したと思われる。
- ・ 出張の必要が減ったため
- ・ 診療の機会が増えた。
- ・ 積極的に参加できるようになった

**変わらない

- ・ 使わないから
- ・ 診療業務にオンラインが関わらないため

臨床研修医・女性

**良くなった

- ・ 現地に行く時間働けるから
- ・ 時間に余裕ができるため。
- ・ 診療の合間に参加できるのでよい

**変わらない

- ・ まだよくわかりません。
- ・ 診療には影響はないため

その他の医師・男性

**良くなった

- ・ web 参加で学会に参加できるようになったことで教育面でのメリットがあり、診療に生きる知識を得やすくなったため。
- ・ わざわざ遠方に行かずとも学会参加、発表が可能。移動時間が不要。
- ・ 移動に時間が取られないため。
- ・ 移動の時間が短縮されて診療業務に影響することなく参加することができる。
- ・ 移動や引継ぎの時間を診療にあてられるから。
- ・ 移動時間がなくなるため、空いた時間を臨床や研究に当てることができる。繰り返し見れる。
- ・ 移動時間の節約になった。
- ・ 遠方の講演会などにも参加可能になった。オンデマンド配信であれば時間の制限もなくなった。
- ・ 交通にかかる時間を減らすことにつながる。
- ・ 時間のやりくりができる
- ・ 時間の節約ができる
- ・ 自宅からの参加が可能となった
- ・ 診療に費やせる時間が増えた

**変わらない

- ・ オンライン診療がまだ普及していないので何とも言えない。
- ・ 会議の数が増えたので、オンラインになってもそれほど時間は変わらない。
- ・ 関係ないから
- ・ 情報量に、変化がない。
- ・ 診療においてはオンラインが浸透していることを実感できないため
- ・ 診療には影響しないと思う。
- ・ 診療はほとんどオンライン化されていないから。放射線科の遠隔読影も大学病院でも可能にはなったが、情報流出の懸念から煩雑な手順を踏まないとできないようになっている
- ・ 他の仕事が増えた
- ・ 特に影響なし。
- ・ 必要な知識は適宜得ていたため、診療に直接的な影響はあまり感じなかった。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

その他の医師・女性

**良くなった

- ・アクセスがしやすくなったから。
- ・これまでは学会に参加するために休診にしていたが、オンラインになって休診にする頻度が減った。
- ・よく学べるようになったので、診療に学会の成果を役立てることが容易になった。
- ・移動時間が無くなった
- ・育児であきらめていた学会にも参加ができるようになった
- ・学会参加のために多くの医師が数日間不在にする、という事態が減り、診療における不測の事態にも対応できるようになった。
- ・学会等への参加頻度が増えたことで知識が増え、自分の診療に還元できるようになったから。
- ・現地に行かなくていいため、診療時間は確保できる
- ・現地に行かなくても学会や勉強会に参加できるようになり、非常に有難い。
- ・診療の合間にオンラインで参加することができるようになったため
- ・診療を休まなくて済む
- ・知識を得やすい。
- ・地方の学会に行くために、診療を余分に休む必要がなくなった。
- ・電話診療、オンライン診療などがひろがり、業務時間が短縮された。
- ・病院に来なくても、処方が可能となり、患者負担が減るから
- ・勉強した内容を生かしやすくなった。

**変わらない

- ・オンラインの機会が増えたことにより変化があったとは思えない
- ・会議の仕事が増えた

**悪くなった

- ・ちょっとした診療上の相談などをしにくくなった。
- ・診療も学会への参加も中途半端になることが多くなった

その他(特任研究員など)・男性

**良くなった

- ・オンラインであれば県外移動後の待機期間が不要である
- ・移動のための休診をせざる状況が減った。
- ・学会や会議等のための移動や準備にかかる時間が短縮され、より診療業務に時間をかけられるようになった。
- ・時間に余裕ができた
- ・時間に余裕が生まれることは、間接的に診療にも良い影響が出そう。
- ・診療時間の短縮
- ・無駄な旅費と時間を削減できる

**悪くなった

- ・新薬の実地臨床での使い勝手、実感といった情報が得られにくい。

その他(特任研究員など)・女性

**良くなった

- ・移動時間が減るので、より多くの患者さんを診る事ができるのではないかと思います。
- ・移動時間の短縮ができたから
- ・医師の出張が減った
- ・遠方まで診療を休んで行かなくて済むようになった。
- ・時間が有効につかえる
- ・常時勤務地域にいることができる
- ・浮いた時間で別の業務を行うことができるようになったから。

42. オンラインでの講義や会議・学会参加等の機会が増えたことによって「診療」業務に変化はありますか【記述】

****変わらない**

- ・ オンラインでも時間がとられることには変わらないので診療時間も変わらない
- ・ オンライン診療に携わっていないため
- ・ 質は変わらない
- ・ 診療に携わっていないので特に変化は感じない。
- ・ 診療業務は行っていない